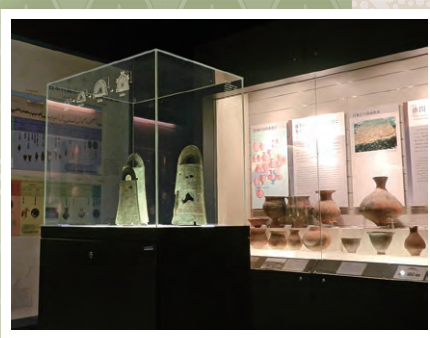


明治大学博物館

年報

2015年度



明治大学博物館

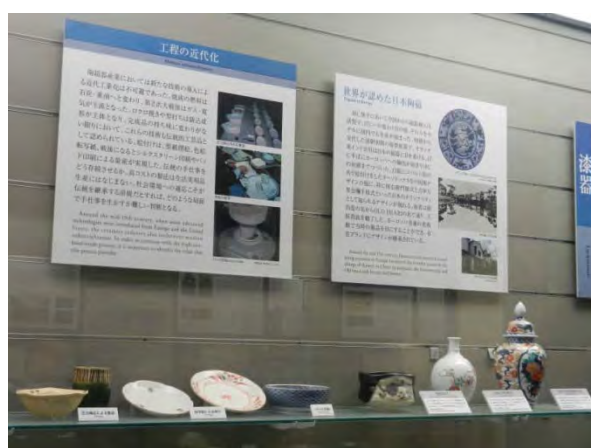
常設展示の改修



今回の改修ではパネル類をほぼ一新した



パネルの文字を大きく読みやすく（刑事部門）



コラム解説を充実（商品部門）



近年収集された文献資料を活用（刑事部門）



パネルのグラフィックを充実（考古部門）



ミュージアムショップもサイン類・一部什器を入替え



新しい埴輪のレプリカを追加（考古部門）



新収蔵・収蔵資料展2015



学生たちの戦前・戦中・戦後



絵図にあらわれる村の景観と生活



「明治の写楽」豊原国周の世界

2015年度の 展覧会



『リトルウィッチアカデミア』の世界



冒険家・植村直己 単独行



漆と塩の人類史～時代を突きぬくテーマと展開～

明治大学博物館

年 報

2015年度



明治大学博物館

目次

口 絵	1
巻頭言 博物館長 村上一博（明治大学法学部教授）	5
I 展示活動	7
1 常設展示の改修（7）	
2 明治大学 Online Museum の制作（8）	
3 その他の展覧会（9）	
II 教育普及活動	10
1 講座（10）	
2 博物館実習（11）	
3 在学生対象事業（11）	
4 アウトリーチ活動（12）	
5 社会連携・大学間連携（12）	
6 ボランティア受け入れ（13）	
7 情報発信（13）	
8 明治大学博物館友の会（14）	
III 研究活動	15
1 調査研究活動（15）	
2 学芸員の研究業績（16）	
3 刊行物（17）	
4 大久保忠和考古学振興基金（17）	
IV 収蔵資料	17
V 統計・一覧・資料	24
1 入館データ（24）	
2 組織・構成（26）	
3 予算・決算（28）	
4 施設概要・見取り図（30）	
5 規程（32）	
6 2015年度教育・研究に関する計画書（38）	
7 2015年度単年度計画重点項目一覧（41）	
8 明治大学博物館のあゆみ（42）	

表紙写真 改修された常設展示 本文 7～8 頁参照

＜巻頭言＞

博物館長 村上 一博
(明治大学法学部教授)

刑事・考古・商品の3博物館が統合され、2004年4月に装い新たに明治大学博物館となって、すでに12年が経過しました。この間、①「収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充」、②「学内共同利用機関としての機能拡充」、③「社会連携の推進と情報発信」の3テーマを博物館の使命として掲げ、展示活動と教育普及活動の充実が図られてきました。私は、本(2016)年4月に第4代目の館長に就任したばかりで、昨年度の博物館事業について熟知しているとは言えませんが、ここに、充実した内容の2015年度明治大学博物館年報をお届けできることは嬉しい限りです。

まず、展示活動について見ますと、2015年度の特別展示室での催しとしては、恒例の「新収蔵・収蔵資料展2015」(4月4日～5月17日)に続いて、「絵図にあらわれる村の景観と生活」(明治大学学芸員養成課程と共催、5月23日～6月28日)と「明治の写楽—豊原国周の世界—」(梅朝洞コレクションと共催、9月25日～10月18日)という2件の共催展覧会を開催しました。前者は、当館が所蔵している江戸時代の絵図から農村の景観と生活を読み取ろうとしたものであり、後者は、近年において「明治の写楽」として海外で評価が高まっている幕末維新期の絵師豊原国周の浮世絵を集めた展示で、いずれも2500名を超える来場者があり好評でした。このほか、「学生たちの戦前・戦中・戦後」(明治大学史資料センター・全国大学史資料協議会東日本部会主催、7月3日～8月2日)、『リトルウィッチアカデミア』の世界(明治大学国際日本学部森川嘉一郎研究室主催、8月28日～9月19日)、「漆と塩の人類史」(明治大学日本先史文化研究所主催、10月27日～12月6日)、「冒険家・植村直己単独行」(公益財団法人植村記念財団・明治大学体育会山岳部主催、3月26日～4月24日)というテーマの4件の学内団体および外部団体による展覧会を開催しました。次々にバラエティーに富んだ展覧会が催され、展示替えの期間を除くと、ほぼ空いている時期がないという状況です。

常設展示に大幅な改修を加えたのも、2015年度の特筆すべき活動です。商品部門では、近代機械工業の発展過程において手工業が存続した必然性に注目して展示を再構成するとともに、日本の伝統工芸に対する世界的な評価という視点を解説に加え、刑事部門では、単なる興味本位で眺めるのではなく、展示品を当時の社会状況との関係の中で理解させるべく、江戸時代の逮捕から刑罰執行に至る諸手続き、とりわけ拷問の実態について、丁寧な解説を付しました。また、考古部門では、最近10年間の研究成果を盛り込み、海外からの来館者の増加に対応するため、解説パネルや資料名ラベルすべてに英訳を付すとともに、すべての時代展示に年代表記を加えました。

こうした特別展・常設展の来場者に図書室・教室の利用者を併せると、2015年度の博物館総入館者数は、7万人を超えるに至りました。常設展解説と図書室ボランティアにご協力いただいた博物館友の会会員の皆さんにも、お礼を申し上げたいと思います。なお、2012年度からICTミュージアム構想を推進し、2014年度に特別展のデジタル・アーカイブ化を実現しましたが、これに続いて、常設展のバーチャルツアーなどウェブを利用した実物資料・画像資料の公開に向けてコンテンツ制作を進めました。展示活動に加えて、リベティアカデミー博物館講座、博物館実習、学部間共通総合講座、社会(宮崎県延岡市)・大学間(南山大学)連携など、教育普及活動についても、継続的な取り組みを行いました。

博物館活動全体としては順調に展開されてきたと言えるかと思われませんが、改善すべき問題がないわけではありません。とりわけ、専任職員を中心とした事務体制の再構築と博物館協議会委員の全学部からの選出という課題は、早期に実現する必要があります。

明治大学博物館は、国内有数の大学博物館として高い評価をいただいておりますが、研究・教育・社会連携の相互循環を促進させることで、唯一無二の「明治大学らしい」博物館の構築に向けて、より一層の飛躍を目指したいと考えています。

(むらかみ・かずひろ 明治大学法学部教授 2016年4月1日博物館長着任)



I 展示活動

1 常設展示の改修

(1) 商品部門

①改修の趣旨

商学部教員との伝統陶磁器のマーケティング、理工学部教員との漆に関する共同研究を通して、近代機械工業の発展と手工業存続の関係性が明らかになった。機械工業が手工業を駆逐するという単純な図式ではなく、時代背景に関わる「必然性」から手工業が存続したという観点から、1950～60年代における旧商品陳列館の初期収集資料との比較という視点を入れて展示を再構成した。また、「スーパーグローバル大学創成支援」事業の推進とも関わり、日本の伝統工芸に対する世界的な評価という視点を加味した解説を用意した。

②改修の状況

下記のグラフィックパネルを新たに設置し、従前の展示に較べて展示物の背景説明を充実させることを心がけた。また、キャプション及びネームラベルも全面的に更新した。

導 入 (展示の来歴と趣旨説明)

コレクションの形成過程／商品 さまざまな伝統的デザイン

大項目 (コーナータイトル＋解説)

陶磁器／漆器／竹木工品／染織品／金工品／和紙と筆

中項目 (文化的背景及び原材料・商品の推移に関する解説)

日本の陶磁文化／陶磁器の種別／工程の近代化／日本文化を彩る漆／漆液の採集と精製／漆塗りの技法／代替品の登場／日本文化と木工／日常用品の生産地移転／金工の日本文化

コラム解説

世界が認めた日本陶磁／海を渡った日本漆器／コンピュータの源流—ジャカード織機／緋—ダブレイカット／JAPAN BLUE 藍染／絞り染の絵画表現／(熊野化粧筆)／(和紙の特徴)

③新収集資料の追加

有田焼深川製磁社製品／有田焼源右衛門窯製品／有田焼究極のラーメン鉢／有田焼「匠の蔵」シリーズ／備前焼胡麻窯変水指／備前焼「備蒸」シリーズ／熊野化粧筆「シャボン」／熊野化粧筆パッケージ 他

(2) 刑事部門

①改修の趣旨

改修にあたっては、現在・未来の法と刑罰を考えるために、過去の法と刑罰を理解しようとした刑事博物館設立時の方向性を引き継ぐ事、各展示品を当時の社会との関係の中で理解する事、キャプション類の見にくさを改善する事、を旨とし改修をおこなった。

②改修の状況

展示構成は、「日本の罪と罰」「捜査と逮捕」「取り調べと刑罰の決定」「刑罰の執行」「さまざまな刑事博物」。最もスペースを割いている江戸時代の捕者道具、拷問具、刑罰具の展示では、江戸時代における逮捕から刑罰執行までの諸手続きをパネルで解説し、その流れの中に各展示品を位置づけている。注目を集める事が多い拷問具などについては、展示品の印象が一人歩きしないように、江戸時代の拷問がどのような流れの中で行われたのかという事や実際に拷問が行われた数がそこまで多くなかった事など、丁寧な記述を行っている。また、ギロチンや鉄の処女などの初期収集品についても、刑事博物館の初期収蔵台帳類の調査によって明らかになった収集の来歴、現時点での資料の位置づけなどを展示に反映している。

展示室が暗くキャプション類が見にくいという来館者の声に応え、パネル類は一新し、フォントを大きくするなどの対応をとっている。

③新収集資料の追加

江戸時代の治安関係資料や逮捕に関わる資料などについては、収蔵資料や新収資料から「條々」「人相書」「衛門類例秘録」「江都官録秘鑑」といった新たな展示品を加え、現在の研究を反映したものにしている。

(3) 考古部門

①改修の趣旨

この 10 年間に進展した研究を反映させ、海外からの来館者の増加に対応するため、解説文パネル・遺跡解説パネル・資料名ラベルに全て英訳を付し、さらに年代表記（考古学的時期区分、～年前、または世紀による表記）を全ての時代展示に加えることで、展示品についてより広い視野からの比較を行えるようにした。

旧石器時代では、近年の日本列島全域を対象とした旧石器時代遺跡のデータベース化によって得られた知見と、明治大学黒曜石研究センターによる長野県中部高地を中心とした黒曜石利用などの研究成果を示した。縄文時代の展示では、製塩研究の新知見を加えている。

弥生・古墳時代は、年代を世紀単位で初めて表記した。特に弥生時代は放射性炭素年代法による弥生時代開始期の論争が現在も行われているため、新たな年代観と旧来の年代観を併記している。また、弥生時代における登呂遺跡・板付遺跡のイネ籾圧痕がついた土器・後期の社会の変化、古墳時代における古墳編年表・群集墳（大室古墳群）の追加は、当館の資料が日本考古学を代表する資料群であることを踏まえ、教科書で歴史を学んだ来館者が時代の流れをより理解しやすくするよう狙ったものである。質量ともに充実した舟塚古墳の埴輪群は考古学専攻との共同研究の成果を紹介している。

②改修の状況

解説パネルは 90%を更新し、近年の研究成果を反映させた。各遺跡の解説は年代と地域名を加え、遺跡名とともに英訳を付して海外からの来館者への対応を充実させている。

導入（各時代の解説）

内容を全面更新

解説・グラフィックパネル

解説は 90%を更新。グラフィックパネルは旧石器・縄文は 60%、弥生・古墳は 30%を更新。

遺跡解説パネル

全点を更新し、新たに 10%増加。地域名、年代の記載を追加。遺跡名、地域名、年代は英訳付。

資料の変更

- ・ 旧石器時代：約 3 万年前以前の武井 I 石器文化の追加
- ・ 弥生時代：登呂遺跡出土土器、板付遺跡イネ籾圧痕付土器、岩櫃山遺跡再葬墓使用出土土器、武器形青銅器（中細形銅矛）の追加
- ・ 古墳時代：「五領遺跡と古墳時代土器の研究」を半減し、「群集墳と積石塚」として長野県大室古墳群の鏡・馬具・武器・須恵器・玉類など 200 点を追加。また、舟塚古墳のエリアを「埴輪のまつり」として、解説パネルを追加し、馬形埴輪および力士埴輪レプリカ・円筒埴輪 1 本を新たに加えた。

③新収集資料の追加

福岡県遠賀町岡垣出土中細形銅矛／合子形石製品（出土地不明）／玉里舟塚古墳力士埴輪レプリカ／玉里舟塚古墳馬形埴輪レプリカ／常陸国分寺瓦レプリカ（体験用） 他

2 明治大学 Online Museum の制作

「明治大学 Online Museum」は、博物館コレクションにもとづく各種のデジタルコンテンツをインターネットで公開することにより、従来の展示、生涯学習講座とは異なる形でコレクションの詳しい学術情報を市民・研究者等に提供することを目的としている。2016 年度中には部分的に公開を開始する予定である。Online Museum では常設展バーチャルツアー、データベース、教育コンテンツ等のデジタル媒体を駆使して多様なコレクションの全体像と詳細な学術情報を発信する。

3 その他の展覧会

(1) 主催・共催展覧会

①新収蔵・収蔵資料展 2015

会 期 4月4日～5月17日 44日間

入場者数 2,655名

会津藩による新刀試し斬りの記録「誅伐者道具試帳」、江戸時代の捕手役人が鍛錬にいそしんだ十手術・小太刀・柔術関連の免許状類、有田焼の中でも最高級となる鍋島・金襴手様式の手彩色による商品、備前焼産地組合による新開発商品、考古遺物では古墳時代の馬具である鉄地金銅張鐘形鏡板、白鳳期の法隆寺の瓦、2010年に復元された玉里舟塚古墳出土馬形埴輪のレプリカなどを紹介した。

②絵図にあらわれる村の景観と生活

※明治大学学芸員養成課程と共催

会 期 5月23日～6月28日 37日間

入場者数 2,522名

明治大学博物館が所蔵する膨大な古文書資料には、多くの絵図が含まれている。江戸時代に作製された村絵図には当時の農村の景観と生活を読みとることができる情報が描かれている。江戸時代の農村に関する研究は、故木村礎名誉教授の指導の下に、明治大学木村研究室が長きにわたり調査・研究してきたテーマであり、景観と生活を重視した研究方法は、木村研究室が生み出したものでもある。

③「明治の写楽」豊原国周の世界

※梅朝洞コレクションと共催

会 期 9月25日～10月18日 24日間

入場者数 2,685名

豊原国周は幕末から明治にかけて最も活躍した浮世絵師である。文明開化と相まって、以前は高価で使用できなかった「赤色」を使い、その奇抜なアイデアと巧みな技法を用いて、役者絵を中心として、その時代で描けるものは何でも描いた。しかしながら、その評価は同時代の絵師と比べると非常に低く、忘れられていると言っても過言ではなく、近年外国での評価が高まり、「明治の写楽」と呼ばれる国周の魅力を公開した。

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

①学生たちの戦前・戦中・戦後

明治大学史資料センター

全国大学史資料協議会東日本部会 主催

会 期 7月3日～8月2日 31日間

入場者数 5,255名

「学生」にスポットを当てた本展示では、第一次世界大戦後の高等教育機関の拡充期から、第二次世界大戦および戦後改革を経て高度経済成長期までの、様々な画期における学生たちの姿を紹介した。これらの時

代に学生たちがいかに生きたかを通し見ることで、現在の学生や大学について考えるきっかけとした。

②『リトルウィッチアカデミア』の世界：アニメ発メディアミックスの新潮流

明治大学国際日本学部森川嘉一郎研究室 主催

会 期 8月28日～9月19日 23日間

入場者数 1,755名

アニメ『リトルウィッチアカデミア』(2013年公開)は文化庁事業の一環として作られた作品で、クラウドファンディングの成功により、2015年以降、新展開が予定されている。本展では、同作を制作したアニメスタジオ、株式会社トリガーの協力により、この新しい事例に焦点を合わせつつ、日本のアニメーションを支えてきたメディアミックス手法の変遷に関する研究成果を展示した。

③漆と塩の人類史～時代を突きぬくテーマと展開～

明治大学日本先史文化研究所 主催

明治大学バイオ資源化学研究所 共催

会 期 10月27日～12月6日 41日間

入場者数 3,258名

縄文時代には温暖化とともに定住的な社会が成立し、さまざまな資源が開発・利用された。資源の利用形態から縄文時代の時間的・地域的多様性を解明するというテーマで、バイオ資源化学研究所と進めてきた漆の共同研究や、縄文時代の生業と社会に関する出土品の最新の研究成果を公開した。

④冒険家・植村直己 単独行

公益財団法人植村記念財団

明治大学体育会山岳部 主催

会 期 3月26日～4月24日 30日間

入場者数 3,003名 (3/31時点 625名)

エベレスト日本人初登頂、マッキンリー(現デナリ)に登頂し世界初の五大陸最高峰登頂達成、北極圏1万2000キロ、北極点単独到達など山岳部OB植村直己による単独の冒険行を紹介した。

(3) コレクション展

①商品部門

ア 和紙

期間 2月24日～4月29日 65日間

手漉き和紙のユネスコ無形文化遺産登録に合わせ、館蔵の美濃和紙、石州和紙、小川和紙を紹介。

イ 高岡工芸 漆器と銅器

期間 5月1日～7月6日 67日間

城下町高岡の成立、そして富山県の近代化政策をまじえて、高岡漆器と高岡銅器について紹介した。

ウ 九谷焼—デザイン—の系譜—

期間 7月10日～10月14日 89日間

現代の九谷焼製品にみられるデザインの多様性の根源を読み解くため、意匠の歴史的変遷を展示した。

エ 輪島塗・山中塗—漆器、日用の器へ

期間 10月23日～2016年1月20日 76日間

日本人の漆器利用の変化を、高度経済成長期を転換期として解説し、現在の商品開発の動向をまとめた。

オ 山陰の民窯と民藝運動

期間 2016年1月26日～5月12日 108日間

民間の需要に応えた小さな窯場が広範囲に分布する山陰地方の陶器について民藝運動の関わりで紹介。

②刑事部門

ア 会津～会津は英雄か、反逆者か～

期間 9月3日～12月18日 107日間

会津戦争関連の古文書や錦絵計6点を展示し、政府と庶民、見る者の立場や時代によって変化する維新期の会津藩の位置づけに迫った。

イ 長崎踏絵借用道中—臼杵藩の宗門改

期間 12月22日～2016年4月10日 128日間

臼杵藩が長崎奉行所で踏絵を借用した際に取り交わした借用証文や道中の先触れなどを紹介した。

③考古部門

ア 明大コレクション 30：前場幸治コレクション

③飛鳥時代の瓦

期間 3月12日～6月17日 98日間

前場コレクションのうち、山田寺など飛鳥時代の軒丸瓦について蓮華文の資料を中心に紹介し、文様の変遷に表れる古代日本人の美意識の変化を示した。

イ 明大コレクション 31：記念館前遺跡④ 江戸の遊び道具

期間 6月18日～9月23日 98日間

土人形を中心に、箱庭遊びの道具など記念館前遺跡の玩具を紹介した。江戸期の女兒の遊びを紹介した浮世絵を公文教育研究会から画像借用し、パネルにして展示した。

ウ 明大コレクション 32：舟塚古墳の円筒埴輪 2

期間 9月27日～2016年2月9日 106日間

舟塚古墳の円筒埴輪5本を展示し、円筒埴輪の視覚効果と配列方法、また舟塚古墳特有の製作技法のあり方について紹介した。

エ 明大コレクション 33：和鏡 日本人好みの意匠

期間 2月10日～5月9日 90日間

江戸期の和鏡について、変遷の概要を示すとともに日本独特の画題として好まれた吉祥文をもつ資料を中心に紹介した。

II 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①使って楽しむやきもの講座

日時	4月14日～5月26日 火曜日		
定員	15:00～16:30〈全4回〉 定員20名		
会場	博物館教室		
講師	外山 徹(学芸員・商品部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	14名
《趣旨》 「古美術」とはまた違った視点(ヒト・モノ・コト)から伝統陶磁器製品の使用価値を紹介。			
①変革期にある陶磁史 — “やきもの” の産地形成と現在			
②悠遠なる歴史のエピソードがあなたのテーブルに 〈桃山の「へうげ」—古田織部〉			
③神秘のベールを剥ぎとる 〈クスリ—釉薬の歴史〉			
④作家モノを求める 〈備前焼の売り方・買い方〉			

②大人のための埴輪整理体験講座

日時	7月2日～7月23日 木曜日		
定員	13:00～14:30〈全4回〉 定員20名		
会場	博物館教室		

講師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	20名
《趣旨》 洗浄・注記・接合・資料化など埴輪の整理作業を体験して埴輪とは何かを学ぶ。			
①埴輪とは何か			
②埴輪の洗浄と注記			
③埴輪の接合と復元			
④埴輪の記録と保管			

③最終氷期と黒曜石をめぐる人類の営み

日時	10月10日～10月31日 土曜日		
定員	15:00～16:30〈全4回〉 定員30名		
会場	アカデミーコモン11F		
講師	島田和高(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	30名
《趣旨》 最終氷期と黒曜石をめぐる人類の営みの歴史の変遷を考える。			
①プロローグ：最終氷期の気候変動とその性格			
②後期旧石器時代における黒曜石利用の変遷			
③中部高地広原(ひろっぱら)湿原の考古・古環境調査			
④まとめ：最終氷期と黒曜石をめぐる人類の営み			

④今日から始める古文書講座

日時	10月27日～1月26日 火曜日		
定員	13:00～14:30〈全4回〉 定員30名		
会場	博物館教室		
講師	日比佳代子(学芸員・刑事部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	15名
《趣旨》 古文書を初めて勉強する人、漢字で記述された日常の記録を読みたい人、に向けた超初級古文書講座。			
①江戸時代の古文書を読む1 ②江戸時代の古文書を読む2 ③江戸時代の古文書を読む3 ④江戸時代の古文書を読む4			

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第56回 杉原荘介と明治大学の考古学研究

日時	6月5日～6月26日 金曜日		
定員	18:00～20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①大塚初重(明治大学名誉教授), ②安蒜政雄(明治大学文学部教授), ③熊野正也(市川市文化財保護審議委員), ④石川日出志(明治大学文学部教授)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	49名
《趣旨》 考古学専攻開設65周年を記念し、創設者の一人である杉原荘介の旧石器・縄文・弥生の研究への貢献と遺跡保存、専攻創設の足跡を振り返る。			
①明治大学考古学専攻と杉原荘介(大塚) ②杉原荘介と旧石器時代研究(安蒜) ③市川市の遺跡と杉原荘介(熊野) ④杉原荘介と弥生時代研究(石川)			

イ 第57回 後藤守一と明治大学の古墳研究

日時	10月2日～10月23日 金曜日		
定員	18:00～20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①②大塚初重(明治大学名誉教授), ③矢島國雄(明治大学文学部教授), ④佐々木憲一(明治大学文学部教授)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	50名
《趣旨》 考古学専攻創設65周年を記念し、東国の古墳研究、虎塚古墳の保存、大室古墳群の調査など初代教授の後藤守一以来の明治大学の古墳研究を振り返る。			
①後藤守一と明治大学の古墳研究の始まり(大塚) ②東国の古墳時代像の追究(大塚) ③虎塚古墳の発掘調査と壁画の保存(矢島) ④大室古墳群の発掘と常陸の古墳研究(佐々木)			

(3) 商学研究科と共催の公開特別講義

商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.10

備前焼の新たな価値創造

ーそのローカルアイデンティティを生かすー

日時	11月27日(金) 10:00～12:00		
会場	リバティホール		
講師	澁田寿昭(備前焼作家)		
パネリスト	高橋昭夫(商学部教授)、菊池一夫(同)、福田康典(同)、上原義子(商学部兼任講師・嘉悦大学経営経済学部専任講師)		
進行	外山 徹(商品部門学芸員)		
参加費	無料	受講者数	414名
商学研究科「商品学特論B」、商学部「商品学B」「市場調査論B」の拡大版として実施。作家によるマーケティング活動に着目し、一般的なマス製品との比較から価格設定、商品開発、ブランディングなどについて討論し、「自分のスタイルや考え方」をモノで表現するという備前焼作家のスタンスが示された。			

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者数 明治大学13名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理、特別展示室監視員

②刑事部門

参加者数 明治大学10名

《実習内容》

館内施設・設備見学、収蔵資料の整理、他

③考古部門

参加者 明治大学13名、東京女子大学1名、専修大学1名

《実習内容》

収蔵資料整理、坂本万七写真研究所コレクション整理

(2) 見学実習

9月4日 日本女子大学学芸員課程 7名

9月10日 南山大学学芸員課程 18名

3 在学生対象事業

①学部間共通総合講座

「大学博物館の現場を実見する」(秋学期開講) 月曜5限

《授業の概要・到達目標》

生涯学習社会にあつて博物館は誰にも平等に保証された教育の機会である。社会生活を営む中でいかに博物館を有効に活用するか? 現代の博物館は、ただ、展示を見学するばかりではなく、友の会やボランティア活動など、利用者がより主体的に活動に関与する機会が開かれそのイメージは大きく変貌しつつある。また、博物館は成人教育の場であるとともに、親子が共に学べる家庭教育の場としての発展が期待されている

る。本講座では、明治大学博物館で実際におこなわれている展示活動、調査・研究のケース・スタディ、最先端の施設・設備の実見、収蔵資料の実物の取扱いなどを通してアリティある実物実見により、博物館とはどのような場所であり、どのような活用の可能性があるのか、理解することを目標とする。

	テーマ	担当者
①	近代博物館の成立と大学博物館	矢島國雄※
②	我が国における大学博物館の現状	外山 徹
③	博物館資料の形成1(刑事関係資料)	日比佳代子
④	博物館資料の形成2(考古資料I)	忽那敬三
⑤	博物館資料の形成3(商品関係資料)	外山 徹
⑥	博物館資料の形成4(考古資料II)	島田和high
⑦	博物館資料の取扱い1(考古資料)	忽那敬三
⑧	博物館の施設・設備	島田和high
⑨	博物館資料の取扱い2(古文書資料)	日比佳代子
⑩	博物館資料の研究1(旧石器研究)	島田和high
⑪	博物館資料の研究2(埴輪研究)	忽那敬三
⑫	博物館資料の研究と特別展の開催	日比佳代子
⑬	博物館の教育プログラム	外山 徹
⑭	生涯学習と友の会活動 総括 ふりかえりと意見交換	外山 徹 矢島國雄

受講登録者数 28名

※文学部教授(学芸員養成課程)・博物館協議会委員長・本講座コーディネーター

②国際日本学部

「文化資源学」(春学期開講) 金曜3限
《授業の概要・目的》

日本文化の源流を過去にさかのぼって考察するための素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学びます。我が国の歴史、伝統的な生活習俗のあり方、今日我々が教科書で学んでいる内容は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのか? 実習形式を取り入れ、文化財の実物を通じた授業をおこないます。

	テーマ	担当
①	文化財とは何か? —文化財保護法とユネスコ世界遺産	外山
②	考古遺物と文化1—旧石器・縄文時代	島田
③	考古遺物と文化2—弥生・古墳時代	忽那
④	遺跡の保存と活用1—旧石器・縄文時代	島田
⑤	遺跡の保存と活用2—弥生・古墳時代	忽那
⑥	考古資料の展示と保管	島田
⑦	発掘された土器の洗浄と接合—考古資料の整理	忽那
⑧	古文書とは何か? —歴史叙述はどこから生まれるのか	日比
⑨	民俗資料とは何か?—庶民生活史の素材	外山
⑩	古文書を読む —江戸時代の武蔵野の歴史をたどる	日比
⑪	古文書の整理 —古文書はどのように後世に伝えられるのか	日比
⑫	金石文—地域に遺された歴史の痕跡	外山

⑬	有形民俗資料(民具)—祖先の暮らしを知る	外山
⑭	古文書を見せる—古文書の展示で歴史を描く	日比
⑮	ふりかえり(ディスカッションと授業内小テスト)	島田

中野キャンパス開講 受講登録者数 3名

4 アウトリーチ活動

- ①出張授業「弥生ムラのタイムカプセル 登呂遺跡」
日時:5月12日(火)明治大学附属明治中学校2年生
講師:忽那敬三(考古部門学芸員)
受講者数:163名

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

- ①宮崎県延岡市
ア 延岡市の地域史学習サークル「充真院を学ぶ会」
との交流

(2) 大学間連携

- 南山大学人類学博物館との交流事業
①交換展示の実施
ア 江戸の刑罰—応報的刑罰論の超克を目指して
会期:9月26日(木)~10月24日(土) 入場無料
会場:南山大学人類学博物館常設展示室
イ 南島との出会い
—今泉コレクションにみる民族造形美術品
会期:9月26日(木)~10月25日(日) 入場無料
会場:明治大学博物館常設展示室
②一般社会人向けギャラリートーク
ア 名古屋 10月24日(土)15:20~16:30
テーマ 江戸時代の刑罰とその思想
講師 外山 徹(明治大学博物館学芸員)
参加者 23名
イ 東京 10月10日(土)15:00~16:10
テーマ オセアニアの不思議なモノたち
講師 如法寺慶大(南山大学人類学博物館学芸員)
参加者 17名

③在学生向け特別講義

- ア 明治大 11月6日(金)4・5限
テーマ 南山大学人類学博物館の取組み
講師 黒沢 浩(南山大学人文学部教授)
受講生 15名
※学芸員養成課程「博物館実習」として実施
イ 南山大 12月9日(水)3限
テーマ 古文書から江戸時代を考える
講師 日比佳代子(刑事部門学芸員)
受講生 14名
※人文学部「人類文化学基礎演習IV」として実施

④交流協定の更新について

第3期事業(2016~2018年度)の実施にともなう交流協定書を3月25日付で調印した。

6 ボランティア受け入れ

(1) 常設展解説ボランティア

- ①参加者 友の会会員 40名
②研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
5/20	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育の特性
5/20	商品部門1 商品部門2	漆器—器物に漆を塗るという意味は？ 染織品—「～織」「～緋」「～紬」織物呼称の意味は？
5/27	商品部門3 商品部門4	陶磁器—一括りにできない種別と原材料・工法 竹木工・金工・文具・和紙
6/3	刑事部門1 刑事部門2	歴史的な法の様々／高札 捕者具と江戸時代の警察制度
6/17	刑事部門3 刑事部門4	江戸時代の取り調べと裁判 仕置と見懲らし・さまざまな刑事博物
6/24	考古部門1 考古部門2	日本の旧石器時代 縄文時代の貝塚と生業
7/1	考古部門3 考古部門4	稲作の伝来と青銅器のマツリ 東国の古墳文化
2016 1/27	3部門	フォローアップ研修

(2) 図書室ボランティア

- ①友の会会員
受付・入退出対応 32名

7 情報発信

(1) 印刷物

- ①明治大学博物館広報誌『ミュージアム・アイズ』
A4判 16頁 各5,000部
65号特集 内藤家文書研究の促進及び旧領延岡市との交流事業
66号特集 常設展リニューアル企画 明治大学博物館検定
- ②『明治大学博物館年報2014年度』 1,100部
- ③常設展ガイドブック
常設展示の改修にともないガイドブックの改訂版を刊行することになった。
52頁 1,000部
編集：忽那敬三 執筆分担者：外山徹、島田和高、日比佳代子、忽那敬三 発行：明治大学博物館
- ④その他
展覧会案内2015年(A4三ツ折) 12,000部増刷
展覧会案内2016年(A4三ツ折) 12,000部

(2) ホームページの公開

ニューズ一覧／イベント一覧／ごあいさつ、明治大学博物館の理念・目標／展覧会案内—これまでの展覧会、2015年展覧会案内、2016年展覧会案内／来館案内—開館時間・休館日・アクセス等、館内の取材・撮影について、博物館蔵資料の利用／図書・古文書の利用—博物館図書室、古文書閲覧のご案内／団体見学について／教育プログラム／ミュージアムショップ

M2／展示部門紹介—大学史展示室、商品部門、刑事部門、考古部門／博物館の重点事業(政策経費の取り組み)／学芸スタッフ紹介／明治大学博物館友の会—入会のご案内、行事予定、展示解説ボランティアについて、図書室管理員の募集について、分科会のご案内／広報誌「ミュージアム・アイズ」／博物館年報／明治大学博物館アーカイブ

(3) 報道機関等による取材

- ①新聞・雑誌掲載
明治大学博物館 考古部門紹介 『につぼん全国土偶手帖』 世界文化社
明治大学博物館 図書室紹介 『首都圏大学図書館ガイド オトナの知的空間案内』 メイツ出版
明治大学博物館紹介 「東京新聞」中日新聞東京本社
明治大学博物館紹介 『東京散策乗物ガイド』改訂版 教材研究所
明治大学博物館紹介 『詳細地図で歩きたい町 東京2016』 JTB パブリッシング
明治大学博物館紹介 「Campus Scope」36号 読売新聞東京本社
明治大学博物館紹介 月刊『散歩の達人』10月号 交通新聞社
明治大学博物館紹介 「中央大学新聞」中央大学新聞学会
明治大学博物館紹介 『おちゃだより』第4号 お茶ナビゲート
明治大学博物館 刑事部門紹介 『bootleg』 明治大学フリーペーパー工房
明治大学博物館紹介 『西南学院大学博物館ニュース』vol.25 西南学院大学博物館
明治大学博物館紹介 『新電気』2016年1月号 オーム社
明治大学博物館 刑事部門紹介 『三回目に行きたい穴場 in 東京』 原点出版社
- ②テレビ放映
明治大学博物館 刑事部門紹介 「片岡愛之助の解明！歴史捜査2時間スペシャル～江戸城禁断の女の園！大奥重大事件の真相を追え！～」 BS日テレ
明治大学博物館 刑事部門紹介 「東京サイト」 テレビ朝日
明治大学博物館紹介 放送大学授業番組「博物館展示論」 放送大学学園
明治大学博物館 刑事部門紹介 「あなたの知らない！江戸のヒーロー大岡越前」 NHK BSプレミアム
明治大学博物館 刑事部門紹介 多岐川恭サスペンス時代劇2H 番宣番組「男と女の江戸歴」BSジャパン
明治大学博物館 刑事部門紹介 「片岡愛之助の解明！歴史捜査」#33『町奉行 遠山の金さんの真実を追え！』 BS日テレ
- ③ラジオ放送・ウェブサイト・その他
明治大学博物館 刑事部門紹介 「マイナビトラベル(仮称)」 マイナビ
明治大学博物館紹介 「駿河台大学法学部ホームページ

ジ) 駿河台大学
明治大学博物館紹介 「Dokka! おでかけ探検隊」
 Dokka エンタープライズ

(4) ミュージアムショップ

①グッズ販売

- ア ミュージアムグッズの見本を展示
 受付窓口で刊行物等有償頒布
- イ 新商品の開発
 - ・Tシャツ 古墳(考古)
 - ・ボールペン(刑事・考古)

②他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

8 明治大学博物館友の会

①会員数 509名 ※2016年3月31日現在

②総会 2015年5月9日(土)

③講演会

- ア 総会特別講演会「銅鐸の終着駅」 5月9日(土)
 千葉県立房総のむら主任上席研究員 白井久美子
- イ 第4回古代史講演会『万葉集』と『日本書紀』
 6月20日(土)
 奈良県立万葉文化館主任研究員 井上さやか
- ウ 日本考古学2015 9月26日(土)
 『箸墓型』前方後円墳の再検討ー京都向日丘陵の前期古墳の研究成果からー
 京都府向日市埋蔵文化財センター次長 梅本康広
 「弥生時代青銅器をめぐる近年の調査・研究動向」
 明治大学文学部教授・学部長 石川日出志
- エ 講演会「縄文文化と民俗学」10月31日(土)
 学習院大学大学院教授 赤坂憲雄
- オ 第5回古代史講演会 12月2日(水)
 「弥生時代の東北北部」
 岩手大学教育学部教授 佐藤由紀男
- カ 明治大学博物館主催・友の会共催講演会「延岡藩の参勤交代～延岡藩内藤家初代藩主政樹の『御初入』を中心に～」12月10日(水)
 延岡市内藤記念館主任学芸員 増田豪

- キ 近世史講演会「描かれた行列から近世社会を考える」12月19日(土)
 国立歴史民俗博物館館長 久留島浩
- ク 会員発表会と講演会 2月20日(土)
 第一部
 「持統天皇吉野行幸の謎」十川昌久会員
 「中里村貝ヶ窪稲荷講帳を読み解く」
 中山史奈子会員
 「郷土カルタ制作秘話」吉野忠夫会員
 第二部
 「中国語は面白い」
 明治大学理工学部教授・博物館副館長 林ひふみ
- ケ 近世史講演会「織田信長と長篠の戦い」
 3月12日(土)
 東京大学史料編纂所准教授 金子拓
- コ 第6回古代史講演会「旧石器人と縄文人の環境適応」3月28日(月)
 東京大学大学院教授 辻誠一郎

④見学会

- ア 第18回会員案内による地元見学会「蓮田市を訪ねるー国指定史跡『黒浜貝塚』と『見沼代用水』を歩くー」5月26日(火)
 案内 新開一男会員
 現地講師 蓮田市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財保護担当主幹 小宮雪晴
- イ 見学会「江戸時代を探訪するPARTIV」7月7日(火)
 「甲州街道と内藤新宿」
 現地講師 新宿区地域文化部文化観光課文化資源係主査・学芸員 榎木真
 現地講師 同 文化財研究員 中村有希
 現地講師 同 文化財研究員 大野節子
- ウ 第19回会員案内による地元見学会「ここまでわかった古代の武蔵国ー武蔵国分寺・国府跡・終末期古墳を訪ねるー」10月6日(火)
 案内 松本浩男会員
 現地講師 武蔵国分寺史跡ガイド 佐々木義身
 現地講師 国分寺市元ふるさと文化財課長・明大OB 福田信夫
 現地講師 府中市ふるさと文化財課長 江口桂
 現地講師 大國魂神社権禰宜 榊田千景
 現地講師 府中市ふるさと文化財課 西野善勝
- エ 宿泊見学会「美濃焼・美濃和紙の里と周辺古墳を訪ねる」
 ・事前打合せ会 11月13日(金)
 ・見学会 11月20日(金)～22日(日)
 同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三
 同行講師 明治大学博物館学芸員 外山徹
 現地講師 大垣市教育委員会文化振興課課長補佐 中井正幸
 現地講師 土岐市美濃陶磁歴史館学芸員・明大OB 春日美海
 現地講師 多治見市美濃焼ミュージアム所長 渡部誠一 同学芸員 山本智子

⑤ 広報活動

- ア 会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)
- イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供
- ウ 友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

⑥ 博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	32 名
展示解説員	火・水・木・金	40 名

⑦ 学習サークル(活動原則として月1回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	34 名	外山学芸員・森朋久氏※1

平成内藤家文書研究会	14 名	伊能秀明氏※2
工芸の会	22 名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	24 名	島田学芸員
弥生文化研究会	30 名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	31 名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	27 名	
前方後円墳研究会	30 名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	28 名	
古代東北アジアと日本研究会	20 名	

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 中央図書館事務長

Ⅲ 研究活動

1 調査研究活動

(1) 商品部門

- ① 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会
4/9 10/2

② 備前焼産地調査

- ア 備前焼作家山本竜一氏(9月16日)
新収集候補資料の選定及びそれに関するヒアリング 調査員:外山徹、福田康典(研究調査員)
- イ 備前焼作家澁田寿昭氏(9月17日)
公開特別講義(11/27開催)の進行に関する打ち合わせ。備前焼の現状と課題、ブランディング、商品開発、人材育成などについて 調査員:外山徹、福田康典(研究調査員)

③ 熊野化粧筆産地調査

- ア 株式会社丹精堂山田耕一氏・山田恵子氏
(9月8日)
熊野化粧筆製造・販売の現状と課題、常設展改修に関わる収集候補資料について打ち合わせ
- イ 合名会社博雲堂中村博氏(9月9日)
熊野化粧筆販売の現状について、パッケージデザイン戦略について

(2) 刑事部門

① 内藤家文書研究の促進

- ア 資料調査
 - ・ 12月9日～11日 芸能・儀礼・藩主関係史料の調査 増田豪(内藤記念館主任学芸員)於明治大学博物館
 - ・ 1月18日～20日 幕末維新时期関係史料の調査 大浪和弥(内藤記念館学芸員)於明治大学博物館

- ・ 2月18日～19日 内藤藩関係資料の調査
日比佳代子 於飯野八幡宮(いわき市)
- イ 調査成果講演会 共催:博物館友の会
延岡藩の参勤交代～延岡藩内藤家初代藩主政樹の「御初入」を中心に～
12月10日(木) 増田豪(内藤記念館主任学芸員)

② 内藤家関係聞き取り調査

- 話者 内藤恵子
聞き手 明治大学文学部教授落合弘樹、宮内庁書陵部内藤一成、九州大学記録資料館梶島政司、日本学術振興会特別研究員内山一幸、日比佳代子
6月20日、10月31日、12月12日の3回 於明治大学博物館

(3) 考古部門

- ① 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」(2011年度～2015年度,研究代表者:小野昭 研究・知財戦略機構特任教授)
- ア 研究分担者として、長野県広原遺跡群第II遺跡出土資料の整理作業および発掘調査報告書の執筆,共同編集(通年・島田)
 - イ 2015年12月19日:「気候変動に人類はどう適応したか?-ヒト-資源環境系の人類誌-」黒耀石研究センター講演会にて講演(島田)

② 明治大学 Online Museum の制作

2016年度に公開予定のウェブサイト:明治大学 Online Museum の公開版を制作した。

③ 科学研究費助成事業基盤研究(C)「気候寒冷化による先史狩猟採集社会の遊動戦略の変化と人口動態」

(2014～2016 年度, 研究代表者: 島田和高)

ア XIX INQUA congress 2015, Nagoya に参加, 口頭発表. エクスカーション・リーダーとして Mid-congress excursion 7: Prehistoric Jomon culture and obsidian-mining sites in the Central Highlands, Nagano Prefecture を主宰.

④科学研究費助成事業基盤研究 (B)「ヒト-資源環境系から見る更新世/完新世初頭の石材獲得活動の国際比較」(2015～2017 年度, 研究代表者: 小野昭 研究・知財戦略機構特任教授)

ア 研究分担者としてオーストリア北チロル地方の中石器時代遺跡群と高山地形の景観について巡見調査を実施 (8.19-8.25・島田).

⑤ウイリアム・ガウランド写真資料 (寄託資料) 関連資料の調査

科学研究費基盤研究 (B)「ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用」(研究期間:2012 年 4 月～2016 年 3 月 研究代表者: 一瀬和夫 京都橘大学教授) に忽那学芸員が研究協力者として参加。2015 年 8 月 3 日～7 日の日程で大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査を実施。また、9 月 18 日に島根県浜田市のガウランドが調査した古墳の踏査を実施。翌 19 日に島根県立古代出雲歴史博物館で行われたワークショップ「山陰古墳研究の黎明—近代考古学研究の父・英国人ガウランドの足跡—」に参加、発表を行う。

⑥展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

愛知県高浜市やきもの里かわら博物館/茨城県行方市大日塚古墳/茨城県立歴史館/国立民族学博物館/高槻市立今城塚古代歴史館/東京都立美術館/名古屋市科学館/奈良県立橿原考古学研究所附属博物館/兵庫県立考古博物館/広島大学帝釈峡野外実習施設/福島県立博物館

⑦玉里舟塚古墳埴輪および三昧塚古墳武具整理作業

茨城県教育委員会・明治大学文学部考古学専攻と共同で報告作成作業を実施

2 学芸員の研究業績

外山 徹

【学会発表】

「近世中後期における高尾山信仰の地域的展開」第 36 回日本山岳修験学会高尾山学術大会～高尾山の信仰と江戸・東京・多摩～公開シンポジウム 2015 年 9 月 26 日 八王子市芸術文化会館
Modern Industrialization of Traditional Crafts by Japanese Government around the Late-20th Century

Core Research Project“Anthropology of Cultural Heritage: Communities and Materiality in the Global Systems”International Symposium Authentic Change in the Transmission of Intangible Cultural Heritage

2016 年 3 月 11 日 国立民族学博物館

【著書】

日本ミュージアム・マネジメント学会事典編集委員会編『ミュージアム・マネジメント事典』(学文社、2015 年 6 月) ※執筆分担者
黒沢浩編著『博物館教育論』(講談社、2015 年 6 月) ※執筆分担者

【資料紹介】

「米沢藩における漆液の採集プロセスについて」(『明治大学博物館研究報告』21、2016 年 3 月)

【書評】

本の紹介: 武蔵御嶽神社及び御師家古文書学術調査団『古文書にみる武州御嶽山の歴史』(『多摩のあゆみ』161、2016 年 2 月)

島田和高

【論文・著書】

島田和高 2015 「上部旧石器時代における中部高地黒曜石原産地の土地利用変化」『第四紀研究』54 (5): 219-234

小野 昭・島田和高・橋詰 潤・吉田明弘・公文富士夫編 2016 『長野県中部高地における先史時代人類誌—広原遺跡群第 1 次～第 3 次調査報告書—』明治大学黒曜石研究センター資料・報告集 1, 明治大学黒曜石研究センター

島田和高・橋詰 潤・会田 進・中村由克・早田 勉・隅田祥光・及川 穰・土屋美穂 2016 「III 広原遺跡群の発掘調査」小野 昭・島田和高・橋詰 潤・吉田明弘・公文富士夫編『長野県中部高地における先史時代人類誌—広原遺跡群第 1 次～第 3 次調査報告書—』明治大学黒曜石研究センター資料・報告集 1, 明治大学黒曜石研究センター

島田和高 2016 「中部高地における景観変遷と後期旧石器時代の黒曜石獲得活動」小野 昭・島田和高・橋詰 潤・吉田明弘・公文富士夫編『長野県中部高地における先史時代人類誌—広原遺跡群第 1 次～第 3 次調査報告書—』明治大学黒曜石研究センター資料・報告集 1, 明治大学黒曜石研究センター

【学会発表】

Shimada, K. Upper Paleolithic obsidian exploitation and human behavior in the central highlands, central Japan. INQUA Congress 2015, Nagoya. 29 July 2015, Nagoya Congress Center, Japan.

【講習等】

島田和高「黒曜石の歴史的価値とは何か？-石器時代人の足跡を追う-」隠岐世界ジオパーク黒曜石シンポジウム「人類最古のブランド・黒曜石の価値に迫る～黒曜石を使った地域振興の可能性～」島根県隠岐島文化会館，講師

島田和高「最終氷期の黒曜石利用と中部高地原産地の開発」気候変動に人類はどう適応したか？-ヒト-資源環境系の人類誌-，2015年12月19日，明治大学グローバルフロント，講師

日比佳代子

【書評】

書評：吉村豊雄著『日本近世の行政と地域社会』（『日本史研究』640，2015年12月）

忽那敬三

【論文等】

忽那敬三「講座と講演会」（『博物館教育論』講談社，2015年6月）

忽那敬三「〈資料紹介〉前場幸治瓦コレクションの関西地方近世城郭の瓦」（『明治大学博物館研究報告』21，2016年3月）

【学会発表】

忽那敬三「考古学から見た古代の子ども-関東の事例から-」日本考古学協会第81回総会 2015年5月23日，帝京大学八王子キャンパス，口頭

【講演等】

「考古学から見た古代の子ども」（平成27年度明治大学・天童市連携「てんどう笑顔塾」2015年7月5日）

「ガウランドの古墳調査とその研究」（みやこ町古墳まつり「歴史文化カレッジ講演会」2015年10

月4日）

「学芸員の仕事とやりがい」（安田学園中学校 2016年1月30日）

3 刊行物

①『明治大学博物館研究報告』第21号 1,100部
《研究ノート》

幕末・維新时期における延岡藩の軍備と兵制
大浪和弥

博物館展示における資料解釈の多様性と展示コンセプト-明治大学博物館伝統的工芸品資料の展示とコンセプト 海塚有理

《資料報告》

前場幸治瓦コレクションの関西地方近世城郭の瓦
忽那敬三

「御婚礼御当日御式」-御順書における奥女中・役人の人物特定 高野美佳

米沢藩領における漆液の採集プロセスについて
外山 徹

《公開特別講義抄録》

備前焼の新たな価値創造-そのローカルアイデンティティを生かす- 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

4 大久保忠和考古学振興基金

基金の残額がわずかとなったため、奨励研究・刊行促進費とも募集を行わなかった。2015年度に奨励研究が終了したため、2017年度に成果報告書の刊行を予定している。

IV 収蔵資料

(1) 資料収集

①資料数（部門別）

		刑事	考古	商品	合計
受 入	購入	8※	2	20	30
	受贈	1	0	13	14
合計		9	2	33	44
前年度総数		215,028	83,657	4,758	306,607
今年度総数		215,037	83,659	4,791	306,651
時田昌瑞ことわざコレクション					1,450
前場幸治瓦コレクション					10,725
総合計					318,826

※内1点は未整理古文書1箱分

《参考》年度別収蔵数（部門別）

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2011	14	10,566	21	1	10	1
2012	14	17	7	6	10	3
2013	17	97	13	31	2	2
2014	16	193※	1	4,923	1	2
2015	8	1	2	0	20	13

※他に未整理文書19箱分あり

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
和書・古文書	長吏小頭弁治関係一括 (上総国武射郡津辺村文書) 伝馬手形(慶長6年(1602)徳川家康) 撰銭御定書(元和2年(1616))
絵図	伊豆七島全図(江戸前期)
器物類	鉄砲鑑札(明治2年(1869)中野役所) 太政官高札(明治3年(1870)・徒党強訴禁止) 桐製ほらがい 2種
考古遺物 レプリカ制作	玉里舟塚古墳出土力士埴輪 大室第168号墳出土馬形土製品
商品資料	備前焼・胡麻窯変水指(山本竜一作) 備前焼・緋襷扁壺(山本竜一作) 株式会社丹精堂製品9点(シャボンセット/フェイス アップセット(レース)青軸/プロフェッショナルセット /フェイスブラシ37T 粗光峰山羊・平/チークブラ シ AQ20 赤リス・丸平/ハイライトブラシ YPV10 ポ ニー・扇/洗顔ブラシ XPQ-01 ポニー /洗顔ブラ シ XPC-01 馬毛/danseido ブラシ(洗髪ブラシ) IPC-01) 博雲堂筆舗取扱品 ARTIST ブランド9点(ハイライ トブラシ RE12-1 灰リス・山羊/アイシャドーブラシ RE12-4 ポニー/携帯用リップブラシ L-8 セープル /アイシャドーブラシ BL12-3 コリンスキー/アイシャ ドーブラシ BL10-1 灰リス・セープル/ アイブローブ ラシ RE6-2 ウォーターバジャー/アイシャドーブラシ RE12-2 松リス・セープル/化粧箱(黒・赤各1))

③受贈資料

部門	資料名
刑事	高札(脱国札・五榜の掲示の内) 慶応4年(1968)
商品	輪島地の粉(一〜四辺及び原石) 能代春慶塗・コースター(石岡庄寿郎製造) 能代春慶塗・杯(石岡庄寿郎製造) 蒜山郷原漆器・ぐい呑み (郷原漆器生産振興会製造) 蒜山砥の粉 3種(粗・中・細) 色絵花鳥文井鉢(大・佐賀県嬉野市吉田窯) 色絵花鳥文井鉢(小・同) 染錦蓮龍鳳文湯呑(柿右衛門窯) 色絵柘榴文皿(同) 色絵花卉文輪花皿(同) 染錦龍文香合(同) 染付花卉車文皿(鍋島様式) 染付雲龍文煎茶器揃(伊万里・精巧社系)

④寄託資料

- ア 『刑罪大秘録』他3点
受託期間 2012年4月1日〜2017年3月31日
- イ 故里見庫男氏所蔵文書(3373点)
受託期間 2013年4月1日〜2016年3月31日
福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の
旧領地域。地元の郷土史研究団体(いわき地域史
学会)及び大学院文学研究科日本史専攻生等によ

- る調査・整理作業がおこなわれた史料群。
ウ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写(458点)
受託期間 2015年4月1日〜2018年3月31日
※3年ごとに更新

⑤資料修復

- 公事方御定書 下 安永7年(1778)中里・写 1件

⑥教材製作

- 延岡城下家中屋敷割図 原寸大バナー 1点

(2) 資料整理

①商品部門

- ア 収蔵資料所在調査・再配架
・陶磁器

②刑事部門

- ア 内藤家文書(近代史料、政道氏寄贈、近代寄贈)
の整理
イ マイクロフィルム等2次資料整理
ウ 1987〜2013年収集資料検索用目録作成

③考古部門

- ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
イ 茨城県舟塚古墳・三味塚古墳出土資料の整理
ウ ガラス乾板の保存処置
エ 収蔵資料の所在確認
オ 前場幸治瓦コレクションの整理(明治大学古代学
研究所と共同作業)
カ 矢島恭介資料の整理(点数・内容確認)

(3) 資料記録

①撮影

- ア 商品部門
・ガイドブック収録用 15点
イ 刑事部門
・古文書
・錦絵等ガイドブック収録用 4点(10カット)
ウ 考古部門
・コンテンツ用立体撮影 7点

②デジタル化

- ア 考古部門
収蔵資料の360°インタラクティブデジタルコンテン
ツの制作。コンテンツはiOS appとして制作しており、
順次増やし2016年度末より公開する予定である。
イ 刑事部門
内藤家文書絵図の「明治大学Online Museum」用デジ
タルコンテンツの作成 2件

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合 計
一次資料 出品数	10 点	585 点	—	595 点
レプリカ等 出品数	0 点	6 点	—	6 点
撮 影	874 点	11 点	—	885 点
掲 載 等	274 点	193 点	5 点	472 点
合 計	168 件 1,158 点	94 件 795 点	2 件 5 点	—

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数 (レプリカ内数)	撮影	掲載
2011	608	1,438	741
2012	1,185 (20)	1,949	704
2013	713 (8)	1,123	582
2014	714 (12)	1,048	475
2015	595 (6)	885	472

②収蔵資料閲覧

調 査 閲 覧 人 数	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
	3,913 点	269 リール	35 件
	254 名		

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古 件数
	古文書(点)	マイクロ(本)	人数	
2011	3,653	20	132	72
2012	6,398	33	116	77
2013	3,858	137	182	66
2014	4,194	185	146	45
2015	3,913	269	254	35

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

(ア) 白河集古苑・桑名市博物館

桑名市・白河市合同企画展「大定信展—松平定信の軌跡—」

会期：2015年10月10日～11月23日

内藤家文書 奉書 9-99 老中奉書 (正月11日付)
計1点

(イ) 延岡市 内藤記念館

企画展「能面に親しむ—内藤家旧蔵の能面—」展

展示期間：2015年9月19日～10月18日

内藤家文書 1-28-22「祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能取噺」他 計7点

(ウ) 高浜市やきものの里かわら美術館

市制45周年記念特別展「馬、たてまつる—埴輪からおまんと、競馬まで—」

会期：2015年7月18日～9月6日

延岡藩内藤家旧蔵 障泥 計1点

イ 考古部門

(ア) 高浜市やきものの里かわら美術館

市制45周年記念特別展「馬、たてまつる—埴輪からおまんと、競馬まで—」

会期：2015年7月18日～9月6日

茨城県西町古墳出土馬形埴輪 A-88 他 計4点

(イ) 歴史に憩う櫃原市博物館

平成27年度夏季特別展「遮光器土偶がやってきた！」

会期：2015年7月11日～9月13日

岩手県雨滝遺跡出土遺物 他 計27点

(ウ) 岩宿博物館

岩宿博物館2階常設展示室に展示

展示予定期間：2015年6月15日～12月7日

重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計39点

(エ) 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）

借用期間：2015年7月1日～2016年6月30日

群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

(オ) 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

第14回特別展「上高津貝塚のころ—縄文後晩期 円熟の技と美—」

会期：2015年10月17日～12月6日

茨城県法堂遺跡出土製塩土器 他 計18点

(カ) 川崎市市民ミュージアム

企画展「古鏡 その神秘の力」

会期：2015年10月10日～11月23日

「火鏡」銘鏡 計1点

(キ) 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示

借受期間：2016年4月1日～2017年3月31日

岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

(ク) 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（テーマ名 日本文化のあけぼの）

期間：2016年4月1日～2017年3月31日

佐賀県茶園原遺跡出土尖頭器 計10点

(ケ) 市立市川考古博物館

市立市川考古博物館常設展示

期間：2016年4月1日～2017年3月31日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計15点

※2015年度中に手続きが終了したものを掲載

④資料利用一覧

ア 刑事部門

(ア) 大垣市立図書館

大垣市史編纂過程で収集した古文書の複写物を利用者への閲覧に提供 河合家文書 計284点

(イ) 京都府立総合資料館

写真版の公開と利用

泉涌寺文書 他 計295点

イ 考古部門

(ア) 市川市役所 文化振興課

市川市法皇塚古墳で出土した金銅製帯状金具を復元するための参考資料を得るため借用
千葉県法皇塚古墳関係資料 計 16 点

(イ) ベネッセコーポレーション

『平成 27 年度 進研ゼミ中学講座 定期テスト暗記 BOOK』(2014 年度明博収 163-3 号)「進研ゼミ+プラス体験会」において見本として公開
福岡県板付遺跡出土壺形土器 計 1 点

⑤掲載一覧

ア 刑事部門

往古うはなり打の図「必殺仕事人 2015」再放送・DVD
朝日放送/テレビ朝日

『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図(石抱責もしくは算盤責)
『大江戸捜査網 DVDコレクション』第 39 号 朝日新聞出版

名和コレクション 南北町奉行所 同心の十手 他
朝日ジュニアシリーズ『週刊マンガ日本史』58 号「徳川吉宗」 朝日新聞出版

内藤家文書 奥州平ノ絵図(磐城平城下の様子) 他
平成 27 年度第 1 回企画展「近世いわきの藩展Ⅱ—鳥居・内藤時代—」パネル いわき市考古資料館

刑事目録 6-書冊-0-3 享保三年武州多摩郡日野領日野本郷指出シ帳
日野の古文書を読む会『二十周年記念誌 軌跡Ⅲ 日野市域の村明細帳』

『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図『大江戸捜査網 DVDコレクション』第 40 号 朝日新聞出版

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 文化財建造物保存技術協会『特別史跡・特別名勝 小石川後楽園得仁堂修理工事報告書』 東京都建設局東部公園緑地事務所

公事方御定書 他「NHK 高校講座 日本史」第 22 回『幕政改革』/第 23 回『幕藩体制の危機』 教育機関へ教育・学習コンテンツとして提供

地方測量之図 「スペシャルサタデー第 3 部 Qさま!! 特別編」 テレビ朝日

地方測量之図『小学校社会科テスト 2 学期 6 年』 評価問題研究所

内藤家文書 備後守政脩代御奉書 桑名市・白河市合同企画展実行委員会『大定信展』図録

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「今昔! 古地図東京巡り〜外堀・牛込・神楽坂編〜」 BS-TBS

口上之覚 生類憐み令 「THE 歴史列伝〜そして傑作が生まれた〜」 #72 『日本一の玉の輿 桂昌院』 BS-TBS

内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「夕刊デイリー新聞」夕刊デイリー新聞社

時世のぼり風 『2016—駿台大学入試完全対策シリーズ 大学入試センター試験過去問題集日本史 B』 駿台文庫

刑事部門常設展示室風景(ギロチン・ニュルンベルクの鉄の処女)「東京新聞」ほっとなび面 中日新聞 東京本社

『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 「片岡愛之助の解明! 歴史捜査 2 時間スペシャル〜江戸城禁断の女の園! 大奥重大事件の真相を追え!〜」 BS 日テレ

『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図(笞打) 他 『江戸 300 年の暮らし大全』 PHP 研究所

『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 「THE 歴史列伝〜そして傑作が生まれた〜」 #72 『日本一の玉の輿 桂昌院』 BS-TBS

『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図(釣責) 他 週刊『FLASH』 光文社

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 「につぼん! 歴史鑑定」 #13 『大岡越前と遠山金四郎』 BS-TBS

高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応 4 年) 2015 年度後期(高 3・高卒生対象)『日本史写真資料集』 河合塾

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 小野健吉『日本庭園の歴史と文化』 吉川弘文館

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ!」 テレビ東京

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 web マガジン「Japan Quality Review」9 月号 インテグラル

『徳川幕府刑事図譜』 日本橋晒の図 永井義男『図説吉原事典』 朝日新聞出版

『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 中丸満「刀の歴史にこの人あり」(『芸術新潮』9 月号) 新潮社

常設展示室風景 放送大学印刷教材『博物館展示論('16)』 放送大学教育振興会

大木文書 イ-15 明治七年目一月目六月民事訴訟金額及件数表 大阪歴史学会近代部会発表レジュメ

株仲間鑑札 「につぼん! 歴史鑑定」 #24 『田沼意次は悪だったのか?』 BS-TBS

武州谷保村文書 刑事目録 6-A-40 明治十年四月より三ヶ月分区入費予算 他 秋季企画展「村の明治“医” 新一谷保の村医者本田家の軌跡—」 展示図録・展示パネル くにとち郷土文化館

公事方御定書 他 「NHK 高校講座 日本史 ①『幕政改革』 /②『幕藩体制の危機』」 NHK E テレ

相模国津久井郡千木良村文書 10-書冊-A-6 村差出書上帳 他 「千木良歴史研究会 会報」 千木良歴史研究会

今川仮名目録 久保健一郎『戦国大名の兵糧事情』(紙媒体書籍・電子書籍) 吉川弘文館

地方測量之図 「おとな会〜オトナ度ちょい増し TV〜」『おとななら地図に感謝しよう』 毎日放送

小豆沢家文書 松江市史編集委員会『松江市史』史料編 8 近世 IV 松江市

内藤家文書 1-11-91 日誌 江戸 大坂へノ道中日記ナリ ホームページ「幕末の延岡藩」

- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図 他 『江戸「捕物帳」の世界』 祥伝社
- 内藤家文書 1-14-60 元禄一六年案詞 鎌倉国宝館特別講演会の資料として使用
- 『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 エントランスパネル展「お仕置き申し付ける！！福井の罪と罰」展示パネル 福井県文書館
- 今川仮名目録 『歴史人』2016年1月号「誰でもわかる「戦国家臣」の基礎知識」 KK ベストセラーズ
- 長宗我部氏掟書 『歴史人』2016年1月号「全国家臣団列伝」 KK ベストセラーズ
- 『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 他 「謎解き！江戸のススめ」DVD 10巻BOX ユーキャン/BS-TBS
- 虎狼刺予防絵説 竹原万雄 フィールドノート 06「病気の歴史との対峙—歴史の見方の変わり方」(『東北学』No. 07) 東北芸術工科大学東北文化研究センター
- 『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 「世界一受けたい授業」 日本テレビ放送網
- 鑑札 株仲間札 「中川栄次『香川県版 中学生の社会科 歴史ノート 上』 新学社
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(十手の使用法) 他 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』19号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 邪蘇宗門御改帳 延宝五年 中山口村 中川栄次 『H28 Wプリント・確認プリント』 新学社
- 武家諸法度 他 『学習まんが 日本の歴史』9巻・10巻 集英社
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 小川保・奥村俊道・富沢晃「歴史の中の建築 小石川後樂園徳仁堂—修理に伴う史料を中心とした考察—」(『文化財建造物研究 保存と修理』2016創刊号) 文化財建造物保存修理研究会
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他 『新・国語の学習』3年 東京書籍版 正進社
- 地方測量之図 2016年度版『社会4年デイリーサピックス 440-08』 日本入試センター
- 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 他 「にっぽん！歴史鑑定」#42『徳川綱吉は暴君だったのか?』BS-TBS
- 『徳川幕府刑事図譜』 磔刑の図 他 青山誠『戦国時代[黒い報告書]』 日本ジャーナル出版
- 『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 『新・国語の学習』3年 光村図書版 正進社
- 三河国岡崎藩(本多氏)太地家文書 48-書状-449 覚婦農見込二付差出覚控 愛知県史編さん委員会『愛知県史』資料編23 近世9 維新 愛知県
- 御成敗式目 他 村上一博・西村安博編『新版 史料で読む日本法史』 法律文化社
- ニルンベルクの鉄の処女 「朝生ワイド す・またん! & ZIP!」 読売テレビ
- 口上之覚 生類憐み令 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』25号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
- 往古うはなり打の図 「タイムスクープハンター 修羅場! 決戦の妻たち」ネットワーク配信
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(十手の使用法) 他 「片岡愛之助の解明! 歴史捜査」#33 『町奉行 遠山の金さんの真実を追え!』 BS日テレ
- 地方測量之図 NHK デジタル教材「NHK for school」
- 鑑札 株仲間札 他 『日本史のライブラリー』東京法令出版
- 『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』26号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他 太田記念美術館監修『江戸の悪』 青幻舎
- 山城国西陣質屋青陽組大津家文書 中井幸比古『京西陣鱗形屋中井家について(仮題)』
- イ 考古部門
- 神奈川県夏島貝塚出土縄文土器(尖底土器) 他 『2016マーク式総合問題集 日本史B』 河合出版
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 平成27年度 進研ゼミ小学講座『考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト 8月号』 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『スマートレーニング 3年社会』 五ツ木書房
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度進研ゼミ中高一貫講座『中1 Challenge 英数国理社 8月号』ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡の発掘調査(1949年) 『群馬の歴史文化遺産調査報告書 平成26年度』 群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会
- 群馬県岩宿遺跡の発掘調査 他 館林市史編さん委員会『館林市史』通史編1—館林の原始古代・中世—館林市
- 茨城県馬渡埴輪製作遺跡A地点埴輪窯検出状況 ワンケースミュージアム 36『馬渡埴輪製作遺跡発掘 50年』(ポスターとパネルに使用) ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
- 岩手県雨滝遺跡出土壺形土器 他 平成27年度夏季特別展『遮光器土偶がやってきた!』(ポスター・パンフレット・チラシ・市HP等の広報) 歴史に憩う 櫃原市博物館
- 茨城県西町古墳出土馬形埴輪 A-88 他 市制45周年記念特別展「馬、たてまつる—埴輪からおまんこ、競馬まで—」(広報目的の印刷物及び図録、ホームページ、広告媒体への掲載) 高浜市やきもの里かわら美術館
- 栃木県下野出流原遺跡出土品 他 東京都指定文化財情報データベースに掲載
- 再葬墓(栃木県出流原遺跡 11号墓) 館林市史編さん委員会『館林市史』通史編1—館林の原始古代・

- 中世一 館林市
群馬県岩宿遺跡試掘調査(1949年9月11日) 他 岩宿博物館入館パンフレット及び簡易印刷のリーフレット類 岩宿博物館
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶写真 他 譽田亜紀子『にっぽん全国土偶手帖』 世界文化社
愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他 『Ⅱ期ゼミ 中1社会』塾用問題集 学書
福岡県板付遺跡出土素文壺形土器 他 辻惟雄『中国語版日本美術の歴史』 生活・読書・新知三聯書店
広島県帝釈寄倉岩陰遺跡 再葬人骨出土状況 『月刊石材』2015年7月号 石文社
神奈川県月見野Ⅱ遺跡から発見された礫群の写真 『タ刊 桐生タイムス』「日本のあけぼの 岩宿博物館だより 第17回 岩宿時代の料理」 桐生タイムス社
岩宿Ⅰ石器文化の石器(約3万年前) 平成27年度夏季企画展「発見!いたみの土からのおくりもの(パンフレット及び解説パネル) 伊丹市立博物館
群馬県岩宿遺跡A地点発掘時写真 他 間壁菫子『よもやまばなし 204話』(ホームページ配信) 公益財団法人倉敷考古館
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『教科書対策テスト 社会 歴史Ⅰ』(東書版)塾用教材〔生徒用・指導用〕学書
岩手県二戸市雨滝遺跡出土壺形土器(大洞BC式) 松木武彦『美の考古学—古代人は何に魅せられてきたか—』 新潮社
埼玉県砂川遺跡出土のナイフ形石器写真 山崎真治「シリーズ遺跡を学ぶ」104 『島に生きた旧石器人・沖縄の洞窟遺跡と人骨化石』 新泉社
神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ 小6社会』塾用プリント ティエラコム
神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 『ビューポイント歴史Ⅰ』塾用問題集 ①生徒用②指導用 学書
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『教科書対策テスト 社会 歴史Ⅰ』(日文)塾用テスト教材 学書
愛知県豊橋市五貫森遺跡出土磨製石器 『NEW BASIC 歴史Ⅰ』(東書版)①生徒用②指導用 塾用問題集 学書
群馬県岩宿遺跡出土石器 『key ワークテキスト 歴史』 教育開発出版
2014年度企画展「ウィリアム・ガウランドと明治期の古墳研究」一般配布されたチラシ(表) 岡崎秀紀『島根とお雇い外国人技術者たち』(自費出版)
愛知県五貫森遺跡出土打製石斧 『HISTORIA 日本史精選問題集』 学研プラス
福岡県板付遺跡出土壺形土器 他 『平成28年度 進研ゼミ 合本チャレンジ歴史』 ベネッセコーポレーション
福岡県板付遺跡出土壺形土器 『平成28年度 進研ゼミ 仕上げ演習歴史』 ベネッセコーポレーション
群馬県岩宿遺跡の最初の発掘調査(1949年9月11日) 『読売新聞 群馬県版』 読売新聞東京本社
愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器 『京都市学習確認プログラム1年 Basic Stage』学力テスト 東京書籍
群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『新ワーク 歴史』(東京書籍版・標準版) 好学出版
埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『新ワーク 歴史』(東京書籍版・標準版・日本文教出版版・教育出版版・帝国書院版) 好学出版
福岡県板付遺跡出土壺形土器 デジタル通信教育教材『平成28年度 進研ゼミ中学講座 メインレッスン社会』 ベネッセコーポレーション
群馬県岩宿遺跡B地点 他 「ぐんま!トリビア図鑑」群馬テレビ
神奈川県二ツ池遺跡出土弥生土器(壺) 他 『2015年度直前講習(高3・高卒生対象) 愛大日本史テスト』『2015年度全統マーク 高2模試問題 地理歴史』 河合塾
埼玉県砂川遺跡出土石器 茂呂型ナイフ形石器 他 『ドラえもん ふしぎのヒストリー1 日本はじまる!〔旧石器時代〕』 小学館
群馬県岩宿遺跡出土石斧とブレイド 他 『パーフェクトコース 中学社会 改訂版』 学研プラス
群馬県武井遺跡出土尖頭器 2 『パーフェクトコース 問題集 中学社会 改訂版』 学研プラス
愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器 『NEW BASIC 歴史Ⅰ』(標準版)①生徒用②指導用 塾用問題集 学書
福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成28年度 進研ゼミ中学講座 『定期テスト暗記BOOK』 ベネッセコーポレーション
栃木県篠山貝塚出土縄文土器 『Ⅲ期ゼミ 小6社会 理科合本』塾用問題集 ティエラコム
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミ 中1社会』塾用問題集 ティエラコム
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『教科書対策テスト 社会 歴史Ⅰ』(教出版)塾用教材 学書
神奈川県夏島貝塚出土骨角製釣針 『中学歴史デジタル教科書 未来をひらく』 教育出版
埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他 藤野龍宏監修『埼玉の考古学入門』 さきたま出版会
愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器 『さなる式 歴史Ⅰ』塾用問題集 学書
群馬県岩宿遺跡出土石器 『key テスト』 教育開発出版
群馬県武井遺跡出土尖頭器 『全教研版 通年テキスト 歴史』 学研プラス
群馬県岩宿遺跡出土岩宿Ⅰ石器文化の石器 他 『日文 中学社会歴史的分野デジタル教科書』 日本文教出版
群馬県岩宿遺跡出土石斧 他 會田康範『改訂版 ナビゲーター日本史1 古代・中世』 山川出版社

神奈川県夏島貝塚出土夏島式土器写真データ 他
企画展「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」
(展示図録・展示パネル・ポスター・チラシ掲載)
福島県文化財センター白河館

東京都茂呂遺跡調査写真 調査風景(石神井川から)
他 中村新之介「茂呂遺跡史跡案内板」板橋区教育委員会

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『iワーク 歴史』(東京書籍版、帝国書院版、日本文教出版版、教育出版版、育鵬社版) 育伸社

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成28年度 進研ゼミ中学講座『入試によく出る基礎 社会』ベネッセコーポレーション

千葉県岩名天神前遺跡出土土器と出土人骨 他 「印西市立木下交流の杜歴史資料センター展示室 展示解説パネル」

千葉県天神前遺跡出土下肢骨写真 谷畑美帆 市民の考古学シリーズ14『コメを食べていなかった? 弥生人』同成社

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『中学教科書ワーク歴史』(教育出版版) 文理

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2016年度中学歴史I』(中1生対象) 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土削器 『毎日の確認 歴史』創育

広島県帝釈寄倉岩陰遺跡 再葬人骨出土状況 長澤宏昌『今、先祖観を問う～埋葬の歴史と現代社会～』石文社

群馬県岩宿遺跡発掘風景 他 「時代の証言者」(『読売新聞』気流面) 読売新聞

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2016年度1学期高2 日本史』(高2生対象)『2016年度基礎シリーズセンター試験 日本史B』(高卒生対象) 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 『I期ゼミ 中1 社会』塾用問題集 ティエラコム

静岡県登呂遺跡発掘風景 老川慶喜『もういちど読む山川日本戦後史』山川出版社

神奈川県夏島貝塚貝層断面写真 他 平成27年度企画展「海と貝塚—関東地方の貝塚を探る—」(図録・展示パネル掲載) 富士見市立水子貝塚資料館

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2016年度中1 Challenge 英数国理社8月号 歴史タイプ』他 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土石器 『key ワークテキスト 歴史』(デジタル教材) 教育開発出版

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『中学教科書ワーク歴史』(標準版) 文理

群馬県岩宿遺跡の最初の発掘(1949年) 他 『赤城山南麓の旧石器』前橋市教育委員会

群馬県岩宿遺跡の発掘調査 他 『飯塚市史』飯塚市

岩手県雨滝遺跡出土石鏃 『2016年度 第1回全統マーク模試問題 地理歴史B(日本史)』河合塾

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『ウィニングサマー1年』(紙媒体・デジタル指導書) 好学出版

神奈川県夏島貝塚出土骨角器<釣針> 松崎哲也「魚釣りをする縄文人」(奈良文化財研究所ホームページ内コラム欄「作寶楼」)

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2016年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト8月号 共通タイプ』ベネッセコーポレーション

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 「スマイルゼミ 中学コース」中学生1年向通信教育教材 ジャストシステム

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 『2017 マーク式総合問題集 日本史B』河合出版

ウ 商品部門

漆の林 「につぼん真発見」『福島県』BS ジャパン

時田昌瑞ことわざコレクション 1-1 江-2 いろはかるた「犬も歩けば棒に当たる」他 光村図書版『国語の学習1年』浜島書店

(5) 図書

①蔵書数 2016年3月31日現在

図書	全所蔵冊数	(冊)	85,798
	和	(冊)	85,011
	洋	(冊)	787
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	2,940
	和	(タイトル)	2,888
	洋	(タイトル)	52

②購入・寄贈数 2016年3月31日現在

ア 図書受入数

総受入冊数		(冊)	2,018
図書受入冊数 *製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 105
		洋	(冊) 6
	寄贈	和	(冊) 1,900
		洋	(冊) 7

イ 雑誌継続タイトル数

総受入種類数	(タイトル)	334
雑誌受入種数	和	(タイトル) 331
	洋	(タイトル) 3

※2015年度統計より、図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

V 統計・一覧・資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 8月10日～16日/12月26日～1月7日

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
博物館	30	31	30	31	24	30	31	30	25	24	29	31	346

エ 月別入館・利用者数

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	3,312	4,335	3,729	4,007	3,968	3,246	4,530	4,249	2,624	2,370	2,790	3,472	42,632
特別展	1,640	1,633	1,904	3,784	1,949	1,953	2,437	2,432	398	0	0	625	18,755
図書室	299	525	655	599	241	352	708	641	517	361	207	216	5,321
教室等 利用者数	279	230	320	409	91	214	311	242	298	281	304	355	3,334
計	5,530	6,723	6,608	8,799	6,249	5,765	7,986	7,564	3,837	3,012	3,301	4,668	70,042

《参考》年度別入館・利用者数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2004～15
常設展示室	45,971	52,240	49,604	46,059	42,333	42,632	499,820
特別展示室	17,968	21,619	20,874	21,057	16,937	18,755	204,182
図書室	5,030	5,531	5,973	5,621	5,476	5,321	61,205
教室等利用	—	1,119	1,637	2,254	3,203	3,334	17,485
計	68,969	80,509	78,088	74,991	67,949	70,042	782,692

②主催・共催展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展 2015	4月4日～5月17日	44日間	2,655名
絵図にあらわれる村の景観と生活	5月23日～6月28日	37日間	2,522名
学生たちの戦前・戦中・戦後	7月3日～8月2日	31日間	5,255名
『リトルウィッチアカデミア』の世界：アニメ発メディアミックスの新潮流	8月28日～9月19日	23日間	1,755名
「明治の写楽」豊原国周の世界	9月25日～10月18日	24日間	2,685名
漆と塩の人類史～時代を突きぬくテーマと展開～	10月27日～12月6日	41日間	3,258名
冒険家・植村直己 単独行	3月26日～4月24日	30日間	3,003名

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

学校見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	1	10	5	7	3	4	8	5	5	3	5	2	58
人数	110	488	170	112	84	112	341	153	79	64	113	26	1,852

イ 一般団体

一般見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	6	8	6	1	3	10	9	7	2	3	54	65
人数	39	140	241	161	15	33	197	360	124	25	45	1,094	1,541

《参考》団体見学数の推移

学校団体	2010	2011	2012	2013	2014	一般団体	2010	2011	2012	2013	2014
団体数	86	54	51	50	47	団体数	51	58	61	54	54
人数	3,770	1,888	1,257	1,352	1,310	人数	1,586	1,293	1,615	1,094	1,448

②団体一覧

4月

卯月会、永楽会、日の出学園中学校

5月

明治大学附属中野八王子中学校 第2学年、千代田ディスカバリーミュージアム、苫小牧市立凌雲中学校 3年生、みなとの女性史研究会、山形県山辺町立山辺中学校、山形市立第四中学校 3年生、愛知県あま市立七宝中学校、山脇学園高等学校、ゆうゆうクラブ、元気に100歳クラブ「日だまり」、曙町2丁目西町会、お茶の水小学校、明治大学公認サークル「戦史研究会」、堀切中学校同窓会 江戸歴史散歩会、東京都立小石川中等教育学校、和洋九段女子高等学校 2年生

6月

愛知県東海市立名和中学校 第3学年、事象研究24、ベストリハ高田馬場、陸上自衛隊中央警務隊、埼玉県立和光国際高等学校 PTA、飯能市双柳公民館、明治大学文学部、日立マクセル株式会社 社友クラブ 関東の会、岡山県立井原高等学校、小平図書館 友の会、茗溪学園高等学校、明治大学附属明治中学校 PTA、埼玉学園大学

7月

千葉県立小金高等学校 PTA、デ・ラ・サール大学、関西学院同窓会東京支部 TWC（トウキョーウォーキングサークル）、岡山県立玉野光南高等学校、しっぶすデイサービスサロン、仙台第一高等学校地歴ゼミ 01 班、慶應義塾大学、法政大学 金井ゼミ、サンパウロ大学、関東学院中学校、ベストリハ高田馬場、東京遊歩会、品川区をよく知る会

8月

日本女子大博物館学芸員課程、昭和薬科大学附属高等学校、川崎市立高等学校地歴公民教育研究会、武蔵野中学高等学校 1年生

9月

神戸学院大学 佐藤ゼミ、千葉県技術・市場交流プラザ第9期会、クラブツーリズム、明治大学法学部医事法演習・立命館大学法学部民法演習今田ゼミ、明治学院中学校、朝日カルチャーセンター プロジェクト事業本部、明治大学法学部 山本ゼミ

10月

ランシット大学（タイ）、NPO 東京シルバー歩こう会、長和町民大学キャンパスツアー、北海道帯広三条高等学校 2年生、明治大学校友会熊谷・行田支部、芽生、飯山満台悠々クラブ、新潟県立柏崎常磐高等学校 2年生、明治大学史学地理学科地理学専攻 昭和37年卒同窓会、駿台甲府中学校、九里市庁文化研修団、北海道札幌藻岩高等学校 2学年、悠々会、茨城県立水海道第一高等学校 1年生、明治大学理工学研究科新領域創造専攻デジタルコンテンツ系、千葉会、匠瑳人権擁護委員協議会第二部会、調布市制施行60周年記念 中学生のための大学一日体験入学

11月

國學院大學地方史研究会、大和市中学校教育研究会社会科部会、クラブツーリズム東京新発見旅 千代田区、立教新座中学校 1年生、医療法人 慈友クリニック、相模原市立小山公民館、埼玉県立越谷東高等学校、さいたま市シニア大学九史会、柏シルバー大学院、くすのきクラブ シティコープ清新、三菱地所 ゆうゆう倶楽部、鳥取城北高等学校 2年生、横浜歴博もりあげ隊、明治大学経営学部「公共マーケティング論」、中央大学49年白門会

12月

クラブツーリズム東京新発見旅 千代田区、府中市立府中第八中学校、鎌倉シティガイド協会、明治大学校友会八王子地域支部、皆んなで楽しく歩こう会、江東区立深川第五中学校、お茶の水女子大学、毎日新聞旅行 TOKYO 大学博物館さんぽ、大原日本語学園、日本セカンドライフ協会、お茶の水女子大学 文教育学部 考古学通論2、駿河台大学法学部 竹内ゼミ（刑法）

2016年1月

昭和音楽大学 学芸員課程、ハマセン09、豊島区立千川中学校、クラブ・オーパスワン、保善高等学校

2016年2月

花と公園めぐり、中野区立北中野中学校、大田区立安方中学校、江戸川区立篠崎中学校、共立財団日語学院、船橋地区保護司会 広報部会、稲毛スカイタウン自治会 東京散歩の会、東京法律専門学校

2016年3月

所沢三田会、長野県長和町中学生、一步の会、歴史散歩の会、特定非営利法人 連想出版、いわき南地区更生保護女性会常磐方部会、長野滔声会、東京みち草散歩会、NHK文化センター 横浜・水戸教室、八王子高等学校マスコミ研究部

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	1	1	1	1	1	1	2	—	—	—	1	9
人数	—	1	50	2	8	7	2	12	—	—	—	20	102

②団体名一覧

神津島村立神津中学校職場体験（5月12～14日）、国士舘大学「史料の保存と保管1」（6月13日）、東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験（7月8～10日）、日本女子大学学芸員課程見学実習（9月4日）、南山大学見学実習（9月11日）、東京都立桜修館中等教育学校職場体験（10月28～29日）、ベトナム社会科学院（11月2日）、東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験（11月10～12日）、国絵図研究会（3月28・29日）

(4) 図書閲覧サービス

①図書開室時間 月～土曜日 10:00～16:30

②閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生													
大学院生	145	341	442	365	118	184	431	406	286	199	56	57	3,031
明大教職員	7	9	10	11	3	9	14	10	12	10	5	7	107
友の会	33	43	52	66	18	32	34	29	39	27	33	31	437
リテイクアカデミー会員	8	9	14	13	8	2	6	6	10	6	6	6	94
聴講生	2	5	9	8	3	3	8	4	8	2	3	2	57
OB	24	29	26	30	18	33	23	20	28	24	20	32	307
他大学学生	22	42	54	47	45	44	126	115	83	34	37	36	685
一般	53	41	43	47	24	37	55	36	41	54	41	41	513
明大その他	5	6	5	12	4	8	11	15	10	5	6	4	91
合計	299	525	655	599	241	352	708	641	517	361	207	216	5,322
開室日数	26	23	26	27	17	21	27	24	21	20	24	27	283
1日平均（人）	11.5	22.8	25.2	22.2	14.2	16.8	26.2	26.7	24.6	18.1	8.6	8.0	18.8

2 組織・構成

(1) 博物館スタッフ

①館長・副館長

任期：2014.4.1～2016.3.31

役職	氏名	所属	専門
館長	風間 信隆	商学部教授	比較経営論
副館長	林 ひふみ	理工学部教授	東アジア研究

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会 連携部長	浮塚 利夫		
博物館事務長	坂元 昭一		
学芸員	外山 徹	商品・ 刑事部門	博物館学/ 地域文化論

学芸員	島田 和高	考古部門	旧石器文化
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	弥生・古墳文化

③非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田 潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	古山 舞	庶務（図書）部門担当
短期嘱託職員	高野 美佳	刑事部門担当
短期嘱託職員	海塚 有理	商品部門担当
短期嘱託職員	伊藤 友香子	考古部門担当
短期嘱託職員	土谷 あゆみ	考古部門担当 （～2016年1月）
短期嘱託職員	海沼 真澄	考古部門担当 （2016年2月～）

(2) 博物館協議会

①協議会 任期 2015. 4. 1～2017. 3. 31

委員長	矢島 國雄	文学部教授
副委員長	菊池 亮一	学術・社会連携部図書館総務事務長
	山口 政信	法学部教授
	高橋 昭夫	商学部教授
	吉村 武彦	文学部教授
	阿部 芳郎	文学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授
	野尻 泰弘	文学部専任講師
	宮腰 哲雄	理工学部教授
	薩摩 秀登	経営学部教授
	南後 由和	情報コミュニケーション学部専任講師
	田部井 茂	経営企画部長
	庄井 正志	経営学部事務長

②資料評価分科会 任期 2015. 6. 25～2017. 3. 31

座長	高橋 昭夫	商学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授
	薩摩 秀登	経営学部教授
	野尻 泰弘	文学部専任講師

(3) 研究調査員

任期 2015. 4. 1～2016. 3. 31

菊池 一夫	商学部教授 (商業経営論)
福田 康典	商学部教授 (市場調査論)
上原 義子	商学部兼任講師 嘉悦大学経営経済学部専任講師
落合 弘樹	文学部教授
牛米 努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室
山路 直充	市川考古博物館

(4) 作業部会①博物館・大学院商学研究科・商学部連携
「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト
推進部会

◎は博物館協議会委員

座長	高橋 昭夫	協議会委員・商学部教授 (商品学)	◎
	菊池 一夫	商学部教授 (商業経営論)	
	福田 康典	商学部教授 (市場調査論)	
	上原 義子	商学部兼任講師 嘉悦大学 経営経済学部専任講師	
	外山 徹	博物館学芸員	

(5) 明治大学博物館友の会 2015 年度役員

相談役	風間 信隆	林 ひふみ	
顧問	大塚 初重	倉田 公裕	熊野 正也
	杉原 重夫		
会長	鈴木 弘		
副会長	野口 淳	平井 孝雄	
理事	蔵 俊夫 (総務)	橋本 秀夫 (行事)	村井 孝行 (会計)
	青鹿 良市 (広報)		
運営委員 (総務)	佐藤 貞子	大島 淑子	
" (会計)	古沢 芳枝		
" (行事)	松村 祐安	本橋 清美	桐生 邦子
" (広報)	望月 桂一郎		
" (図書室 管理員 代表)	木戸 孝義		
" (展示解 説員副 代表)	渡辺 やす子		
展示解説 員代表	内田 誠		
監事	斉藤 正美	支倉 紀代美	
分科会	古文書を読む会		高橋 幸子
	平成内藤家文書研究会		粕谷 宏幸
	工芸の会		樋口 明弘
	旧石器・縄文文化研究会		長野 陽次
	弥生文化研究会		磯辺 隆信
	古文書の基礎を学ぶ会		石井 吉彦
	東アジアの中の古代日本研究会		山本 廣一
	前方後円墳研究会		磯辺 隆信
	「倭国から大和」を学ぶ会		(代行) 村井 孝行
	古代東北アジアと日本研究会		勝尾 實

(6) 各種会議開催日

①博物館協議会

6/25 2016/3/23

②資料評価分科会

7/14 12/15

③博物館・友の会連絡会議

5/15 9/18 11/19 2016/2/19

3 予算・決算

(1) 2015年度事業費予算・決算

予算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費					合計
			常設展示 改修	大学博物館 交流事業	内藤家文書 研究・交流	I C Tミュー ージアム	—	
兼務職員人件費	918,000	0	0	0	0	0	—	918,000
福利費	15,000	0	0	0	0	0	—	15,000
修繕費	765,000	0	680,000	0	0	0	—	1,445,000
旅費交通費	1,170,000	10,000	0	85,000	270,000	0	—	1,525,000
業務委託費	808,000	0	1,394,000	0	0	1,800,000	—	4,002,000
保険料	360,000	0	0	9,000	0	0	—	369,000
準備品	0	0	0	0	0	0	—	0
その他の消耗品費	1,620,000	20,000	0	9,000	0	0	—	1,629,000
印刷製本費	1,332,000	0	1,170,000	135,000	0	0	—	2,637,000
郵便費	0	0	0	0	0	0	—	0
運搬費	90,000	0	0	405,000	0	0	—	495,000
広告費	0	0	0	22,000	0	0	—	22,000
支払手数料	117,000	30,000	0	54,000	45,000	0	—	216,000
賃借料	18,000	0	0	0	0	0	—	18,000
会合費	108,000	60,000	0	0	0	0	—	108,000
公租公課	31,000	0	0	0	0	0	—	31,000
管) 準備品	0	0	0	0	0	0	—	0
管) その他の消耗品費	0	0	0	0	0	0	—	0
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	—	0
教育研究用機器備品費	5,400,000	0	3,345,000	0	0	0	—	8,745,000
図書費	360,000	0	0	0	0	0	—	360,000
合計	13,112,000	120,000	6,589,000	719,000	315,000	1,800,000	—	22,535,000
前年度予算額	15,033,000							23,693,000
増・減(▲)	▲1,921,000							▲1,158,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
 ※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費					合計
			常設展示 改修	大学博物館 交流事業	内藤家文書 研究・交流	ICTミュー ジウム	—	
兼務職員人件費	1,206,783	0	0	0	0	0	—	1,206,783
福利費	0	0	0	0	0	0	—	0
修繕費	742,430	0	0	0	0	0	—	742,430
旅費交通費	762,826	0	0	160,560	141,124	0	—	1,064,510
業務委託費	1,607,709	0	4,486,302	0	76,680	1,792,800	—	7,963,491
保険料	133,700	0	0	0	0	0	—	133,700
準備品	540,540	0	0	0	0	0	—	540,540
その他の消耗品費	1,617,054	0	69,120	0	0	0	—	1,686,174
印刷製本費	1,288,220	0	1,272,240	66,960	0	0	—	2,627,420
郵便費	690	0	0	0	0	0	—	690
運搬費	29,358	0	0	305,937	0	0	—	335,295
広告費	84,000	0	0	0	0	0	—	84,000
支払手数料	100,684	0	0	0	60,000	0	—	160,684
賃借料	15,184	0	0	0	0	0	—	15,184
会合費	77,404	0	0	0	0	0	—	77,404
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	—	30,000
管) 準備品	0	0	0	0	0	0	—	0
管) その他の消耗品費	0	0	0	0	0	0	—	0
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	—	0
教育研究用機器備品費	4,486,284	0	936,144	0	0	0	—	5,422,428
図書費	0	0	0	0	0	0	—	0
合計	12,722,866	0	6,763,806	533,457	277,804	1,792,800	—	22,090,733
前年度決算額	14,809,385							23,130,298
増・減(▲)	▲2,086,519							▲1,039,565

※予算額を越える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

(2) 2015年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	227,300
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	121,680
撮影・掲載料	200,000	668,000
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	0
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	523,130
その他	10,000	8,825
合計	1,280,000	1,548,935
前年度予算・決算額	1,280,000	2,598,061
増・減(▲)	0	▲1,049,126

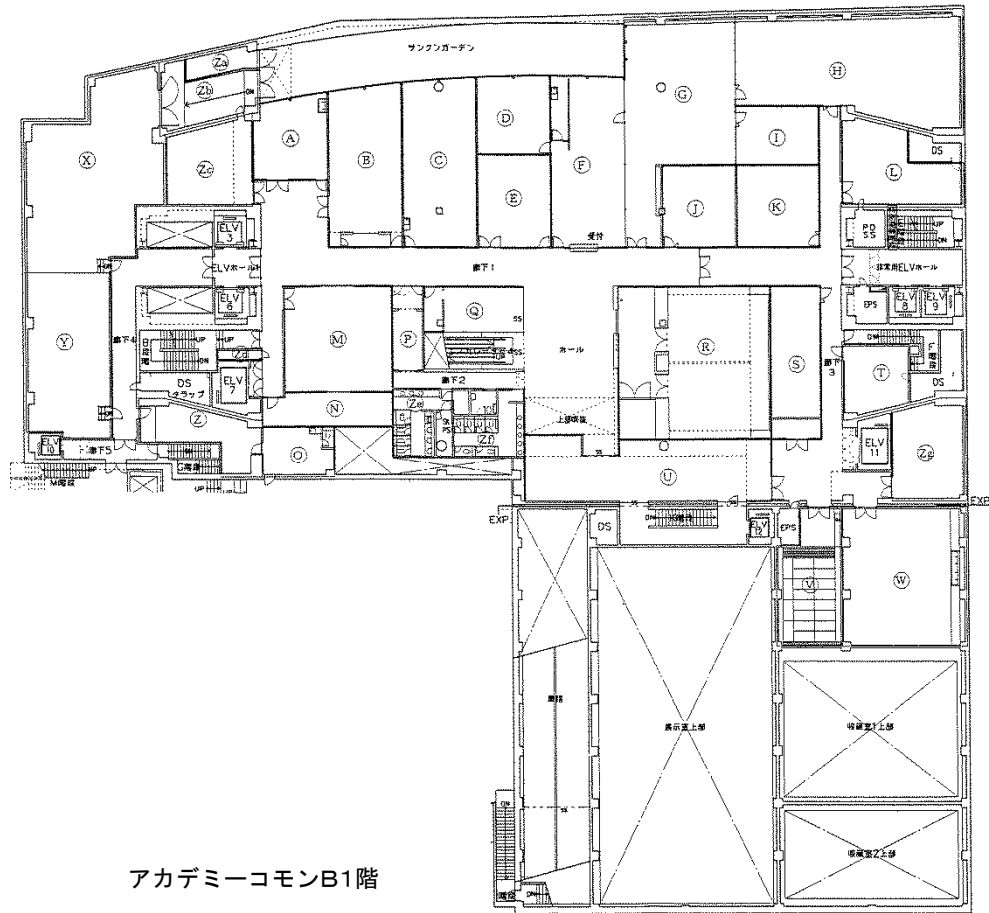
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

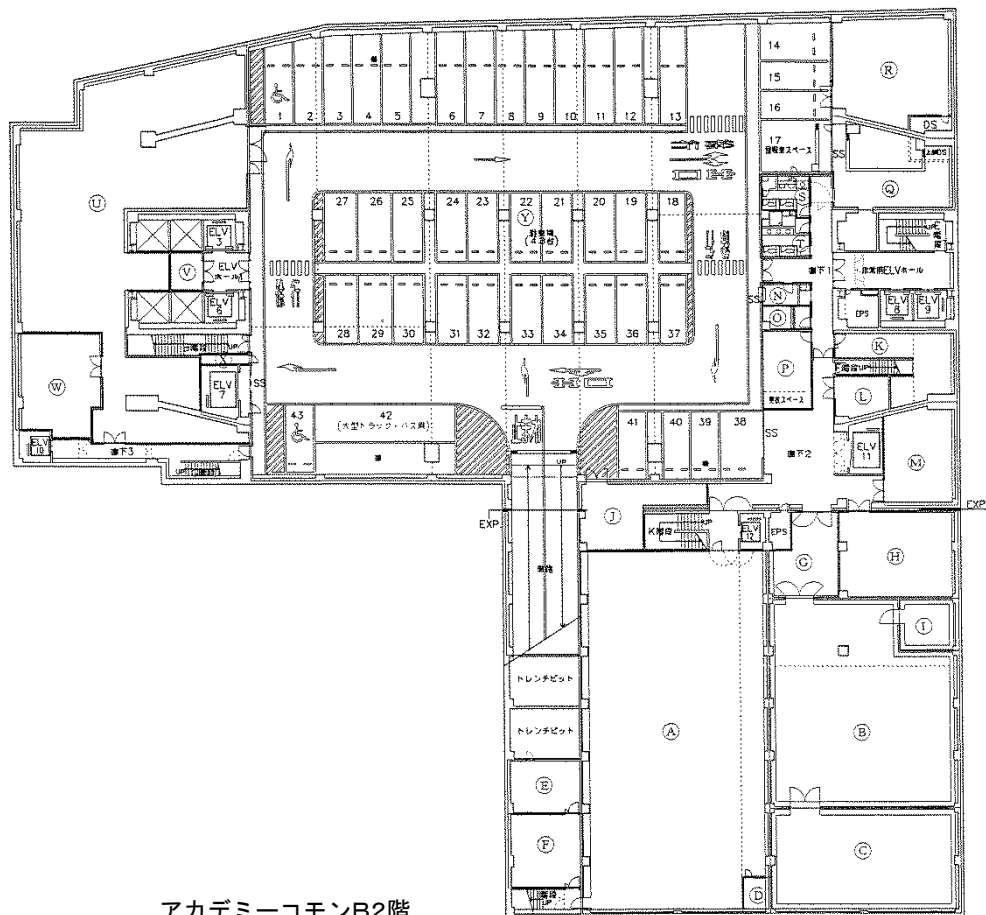
(単位 m²)

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m ²	243.90 m ²
	事務室	B1	F	94.06 m ²	
	会議室	B1	J	45.12 m ²	
	倉庫	B1	L	61.86 m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m ²	523.22 m ²
	書庫	B1	H	176.03 m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95 m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94 m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31 m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m ²	785.73 m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20 m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34 m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m ²	332.76 m ²
	作業室 1	B1	V	60.80 m ²	
	作業室 2	B1	W	129.70 m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23 m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m ²	649.11 m ²
	一時保管室	B2	H	77.35 m ²	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 m ²	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m ²	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 m ²	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 m ²	
合 計					2,534.72 m ²

(2) 施設見取り図



アカデミーコモンB1階



アカデミーコモンB2階

5 規程

明治大学博物館規程

1991 年 10 月 31 日制定
1991 年規程第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、明治大学学則第 6 4 条第 2 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (7) 生涯教育の振興及び学習支援
- (8) 分館の設置及び運営
- (9) その他必要と認められる事業

(館長)

第 4 条 博物館に、館長 1 名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により本大学が任命する。
- 4 館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第 5 条 博物館に、副館長 1 名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、本大学が任命する。
- 4 副館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第 6 条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職 1 名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第 3 条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第 6 条の 2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員並びに学外の有識者及び若手研究者の中から、館長が次条に規定する明治大学博物館協議会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館協議会)

第 7 条 博物館の運営に関する事項について検討し、及び協議し、並びに館長の諮問に応じるため、博物館に明治大学博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、本大学の専任教職員の中から、館長の意見を聴いて学長が委嘱する委員若干名をもって組織する。
- 3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。
- 5 協議会に、委員長及び副委員長各 1 名を置く。
- 6 委員長及び副委員長は、委員の互選により、これを定める。
- 7 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 8 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 9 協議会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 10 協議会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 11 分科会に関し必要な事項は、委員長が協議会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程を改廃するときは、協議会の議を経なければならない。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、館長が協議会に諮り、学長の承認を得て別に定める。

附 則 (1991 年規程第 2 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991 年（平成 3 年）10 月 31 日から施行する。
(明治大学刑事博物館規程等の廃止)
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
 - (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和 56 年規程第 72 号）
 - (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和 56 年規程第 73 号）
 - (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和 56 年規程第 74 号）

(通達第 669 号)

附 則 (1996 年度規程第 16 号)

この規程は、1997 年 (平成 9 年) 4 月 1 日から施行する。
(通達第 893 号) (注 博物館協議会の設置に伴う改正)

附 則 (2001 年度規程第 14 号)

この規程は、2002 年 (平成 14 年) 4 月 1 日から施行する。
(通達第 1143 号) (注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

附 則 (2003 年度規程第 8 号)

(施行期日)

1 この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

2 改正前の明治大学博物館規程第 6 条第 1 項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、2004 年 (平成 16 年) 3 月 31 日をもって満了するものとする。

(通達第 1232 号) (注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

附 則 (2006 年度規程第 13 号)

この規程は、2006 年 (平成 18 年) 11 月 16 日から施行する。
(通達第 1490 号) (注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 21 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 9 月 10 日から施行する。
(通達第 1562 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2008 年度規程第 4 号)

この規程は、2008 年 (平成 20 年) 5 月 20 日から施行する。

(通達第 1689 号) (注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994 年 9 月 26 日制定

1994 年度例規第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、明治大学博物館規程 (1991 年規程第 2 号) 第 9 条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品 (以下「資料等」という。) の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。

(2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第 3 条 資料等の撮影及び掲載 (以下「撮影・掲載」という。) を希望する者 (以下「申請者」という。) は、所定の資料撮影・掲載申請書 (以下「申請書」という。) を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長 (以下「館長」という。) に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第 4 条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができること明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第 5 条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第 6 条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第 1 に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等 1 点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。
(料金の免除)

第 7 条 前条第 1 項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関

する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。

- (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
- (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
- (4) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
- (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
- (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
- (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1 部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

（準用規定）

第 8 条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第 3 条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第 6 条第 1 項中「別表第 1 に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第 2 に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第 3 に定める料金を」と読み替えるものとする。

（その他の諸経費）

第 9 条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

（意匠使用）

第 10 条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

（申請者の責務等）

第 11 条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

（許可の取消し等）

第 12 条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

（雑則）

第 13 条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館協議会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則（1994 年度例規第 7 号）

この要綱は、1994 年（平成 6 年）9 月 27 日から施行する。

附 則（1997 年度例規第 7 号）

この要綱は、1997 年（平成 9 年）12 月 16 日から施行し、改正後の第 1 条及び第 1 3 条の規定は、同年 4 月 1 日から適用する。

（通達第 922 号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附 則（2004 年度例規第 7 号）

この要綱は、2004 年（平成 16 年）10 月 1 日から施行する。（通達第 1312 号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附 則（2007 年度例規第 9 号）

この要綱は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。（通達第 1563 号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009 年度例規第 9 号）

この要綱は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

（通達第 1808 号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2015 年度例規第 1 3 号）

この要綱は、2016 年（平成 28 年）4 月 1 日から施行する。（通達第 2363 号）（注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正）

別表第 1（第 6 条関係）

撮影・掲載料金（消費税は含まない。）

写 真・動 画	10,000
---------	--------

（単位：円）

別表第 2（第 8 条関係）

熟覧料金（消費税は含まない。）

熟 覧	5,000
-----	-------

（単位：円）

別表第 3（第 8 条関係）

貸出掲載・転載料金（消費税は含まない。）

1 写真フィルム原版

サイズ	4 × 5 (インチ)	6 × 8 (cm) 6 × 6 (cm)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

（単位：円）

2 デジタル写真

カラー・ モノクローム	4,000
----------------	-------

（単位：円）

3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタル コンテンツ	20,000
-------------------	--------

（単位：円）

明治大学博物館特別展示室の利用に関する 取扱要綱

2005年10月4日制定
2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程（昭和46年規程第38号）第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ（以下「特別展示室」という。）の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等（以下「特別展等」という。）に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認められたとき。

- 2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。
- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合は、1日につき2,700円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。
- 4 第3条第6号に該当する場合は、1日につき5,400円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。
- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。
- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館協議会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年（平成17年）10月5日から施行する。
（通達第 1397 号）

附 則（2007 年度例規第 9 号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。
（通達第 1563 号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009 年度例規第 9 号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。
（通達第 1808 号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995 年 5 月 8 日制定

1995 年度規程第 2 号

（設定）

第 1 条 明治大学（以下「本大学」という。）に、本大学文学部史学地理学科（考古学専攻）の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金 5,000 万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金（以下「基金」という。）を設定する。

（目的）

第 2 条 基金は、考古学及び明治大学博物館（以下「博物館」という。）にかかわる調査・研究（以下単に「調査・研究」という。）を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

（資産）

第 3 条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第 1 条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第 7 条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

（基金の運用等）

第 4 条 基金の資産は、資金の運用に関する規則（2009 年度規則第 20 号）に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第 6 条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

（事業）

第 5 条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
- (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
- (3) 前 2 号のほか、第 2 条の目的達成に必要な事業

- 2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。（基金運営委員会）

第 6 条 基金の運用等及び前条第 1 項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 明治大学博物館長 1 名
- (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）1 名
- (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
- (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2 名
- (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第 3 号及び第 5 号の委員は、委員長が委嘱する。

- 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員は、再任されることのできる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第 2 項第 1 号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第 2 項第 2 号の委員が、その職務を代行する。

8 委員長は、会務を総理する。

9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。（収支残額の処理）

第 7 条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

（事務）

第 8 条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

（規程の改廃）

第 9 条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

（雑則）

第 10 条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則（1995 年度規程第 2 号）

（施行期日）

- 1 この規程は、1995 年（平成 7 年）5 月 9 日から施行する。（委員の任期の特例）
- 2 この規程の施行後、最初に任命される第 6 条第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員の任期は、同条第 4 項本文の規定にかかわらず、1997 年（平成 9 年）3 月 31 日までとする。（通達第 806 号）

附 則（2003 年度規程第 35 号）

この規程は、2004 年（平成 16 年）4 月 1 日から施行する。（通達第 1282 号）（注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更

に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 40 号)

この規程は、2007年(平成19年)11月8日から施行する。
(通達第 1604 号)(注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、
改正後の規定は、同年4月22日から適用する。
(通達第 1807 号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010 年度規程第 6 号)

この規程は、2010年(平成22年)5月26日から施行し、
改正後の規定は、同年3月30日から適用する。
(通達第 1911 号)(注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定

1993年4月 1日改訂

2006年4月 1日改訂

2010年4月 1日改訂

(名称)

第 1 条 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

第 2 条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学博物館(以下「博物館」という。)内に置く。

(目的)

第 3 条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 講演会・研修会・見学会などの開催
2. 会報、ニュース、図書の発行
3. 会員による自主研究分科会活動
4. 博物館事業への協力活動
5. その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

第 5 条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

(会員の特典)

第 6 条 会員には、次の特典がある。

1. 本会および博物館の行事などの情報提供
2. 明治大学並びに博物館主催行事への優待参加
3. 明治大学図書館の閲覧
4. 関係図書・資料等の割引購入

(退会)

第 7 条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

1. 退会の申し出があった場合
2. 死亡した場合
3. 会費の有効期限が過ぎた場合
4. 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合
(役員)

第 8 条 本会に、次の役員を置く。

会 長	1 名
副 会 長	2 名
理 事	5 名以内
運営委員	若干名
監 事	2 名以内

(役員を選出)

第 9 条 役員は、次のとおり選出するものとする。

1. 会長および監事は、総会で選出する。
2. 副会長および理事は、会長が任命する。
3. 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事会において選任し、会長が任命する。
4. 上記 2. 3 について、会報で報告する。
5. 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員の仕事)

第 10 条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ない時は、その職務を代行する。
3. 理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
4. 運営委員は、理事と共に会務を行う。
5. 監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

(役員の仕事)

第 11 条 役員の仕事は、2 年とする。

1. 役員の仕事の再任を、妨げない。
2. 補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第 12 条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

1. 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
2. 相談役および顧問は、会長の諮問に応じる。

(総会)

第 13 条 本会は、年 1 回総会を開き、当該年度の事業報告・会計報告並びに次年度の事業計画・予算案の承認を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第 14 条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

1. 総会に付議する重要な事項。
2. その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事の過半数の要求があった場合、理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第15条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第16条 本会の会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 一般会員 | 3,000円 |
| 2. 家族会員 | 1,500円(同居の家族) |
| 3. 学生(明治大学学生) | 1,500円 |
| 4. 賛助会員(1口) | 10,000円 |

(会計)

第17条 本会の会計は、次のとおりとする。

本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2015年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書 博物館

1 理念・目的

バブル経済崩壊後の失われた20年において、我が国の社会・経済構造は大きく変質した。グローバル化や情報化の進展にともなうドラスティックな社会変動の中、①それに対応し得る高度な人材育成と②学びを基軸とする新たなコミュニティの形成、という大学に対する社会の期待と要請はますます高くなり、大学が果たすべき社会的責任が厳しく問われるようになってきた。教育研究の成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することこそが大学の使命であるが、社会がそれを認知するには実績の“見える化”が不可欠である。そのために大学博物館は、極めて重要なインフラ基盤であるし、これを強化することで大学全体の社会的発信力を高め、明治大学の発展に重要な貢献を果たしうる機関である。また、教育、研究と並び大学が果たすべき3つ目の柱として掲げられている社会連携についても、本学における特色ある教育・研究の成果を地域に還元し、生涯学習の機会を提供する事業拠点として、他大学にはない、際立って特色的な役割を果たすことができる。

そこで、博物館は以下のミッションを掲げ、長期・中期計画策定の方針とする。

ミッション1：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充
博物館が管理する国内有数の収蔵資料群を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充
学部・大学院や研究・知財戦略機構と連携し、本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、博物館として特色ある教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会連携の推進と情報発信

博物館及び本学における教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会を提供し、収蔵資料の原所在地自治体等との交流を通して本学の社会連携推進に寄与する。ICTの活用によって、これらの教育・研究成果をより広範な不特定多数の人々に対して発信する機能を強化する。

2 教育研究組織

(1) 研究・知財戦略機構との連携、研究活動への参画

刑事、商品、考古の3部門で構成される博物館の収蔵資料に関わる専門領域に関連して、研究・知財戦略機構の附属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットの活動への参画や連携、学部・大学院との連携強化により、教員や研究グループとの共同研究体制の構築に努める。

(2) 黒耀石研究センターへの支援

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたセンターの研究活動に対して引き続き支援の態勢を取り、運営上の提携と事業の共同実施などの方策を推進する。

3 教職員・教職員組織

(1) 博物館協議会の改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は、旧3館時代における各館の運営委員会を統合・再編したもので、学内共同利用機関としての機能拡充において十分な態勢ではない。全学的な意思反映のネットワーク基点として機能しつつ、博物館活動の専門領域に対応し得る組織を構想し、各学部から選出された委員によって構成され、館の運営方針及びその執行に責任を負う運営委員会に改組する。

(2) 学芸員の専門職的位置付け

本学の博物館が他大学に対して優位性を保持する理由として、教員の兼担ではない専任の学芸員が配置されており、恒常的な館務への関与が可能な点と、専門的職務遂行要員として機能している点を指摘できる。この、当館にとってのコアコンピタンスを維持・保証するため、学芸員を専門職として制度的に位置付ける。

(3) 学外からの研究者受入体制の整備

博物館の収蔵資料を研究テーマとし、長期的な取り組みを志す学外の研究者による資料の継続的利用に対応する体制を整備する必要がある。レファレンス対応をはじめ、客員研究員としての受入も視野に入れつつ体制の整備を策定・推進する。

4 教育内容・方法・成果

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館や提携する学内研究機関の調査・研究の成果を社会発信するために企画する特別展は、博物館の中核的事業として毎年の政策的計画No.1と位置づけ、担当学芸員一人当たりの年間エフォートの大半を傾注している。但し、2015年度については常設展示の改修を特別展に替えて最重点課題とする。

(2) 学内外の機関等と共同で開催する展覧会

これまで利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなってきた。特別展示室の利用を周知し、学内団体による利用を活性化させ、「共同利用機能の拡充」を目指す。

(3) 教育普及事業

ア 在学生対象事業

常設展示の改修においては建学の精神の具現化や国際的評価の視点を積極的に盛り込み、展示見学を通して広い教養に裏打ちされた心豊かな人材育成に資するべき教育プログラムの構築計画を策定する。学芸員資格課程における館務実習生の受入、学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義、その他収蔵資料を活用した特色ある講義を継続するとともに、ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を構想する。

イ 生涯学習事業

一般社会人を主な対象とし、学芸員の専門的知識・技能を活用した生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。

5 博物館の国際化対応

(1) ICTミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源群であり、その活用は国際的な広がり期待される。また、発掘調査報告書や展覧会図録といった蔵書も、際立って特色的な存在である。これら資料情報の国際的な共有を図るため、特別展・常設展の動画コンテンツ制作や収蔵資料の画像データベース公開など電子媒体と多言語による情報発信体制の構築を策定・推進する。

(2) 国際学術交流の推進

旧石器時代研究に関わり韓国の石壮里博物館、ガウランド寄託資料に関わりイギリスの大英博物館との学術交流を推進する。

(3) 国外からの研究者受入体制の整備

資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。客員研究員の受入も視野に体制の整備を策定・推進する。

(4) 国際化対応の組織構築

学芸員は国外での研究発表や調査活動、外国事例の研究などの実績を有するが、その成果を拡張するには、現在の博物館の人員体制は全く不十分であり、速やかな改善が求められる。明治大学における国際的研究の進展を振興する一手段として博物館の活用を考える必要がある。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては、その技術的裏付けとなる調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究に際しては科学研究費補助金等外部資金の獲得に積極的に取り組む。

イ 博物館資料に関連する共同研究

現在進行中の譜代大名内藤家文書、伝統的工芸品産業、時田ことわざコレクション、茨城県玉里舟塚古墳出土資料、前場幸治瓦コレクションに関する調査・研究は、研究クラスターや特定課題研究ユニット等と共同で行われている。また、必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱して共同研究を行う。政策的計画「内藤家文書研究の推進及び旧領延岡市との交流事業」(2011年度～2015年度)を推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

“共同利用機能の拡充”では、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。「イ」に掲げた各種の調査研究・資料整理作業は、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 博物館施設の見直しと改修

2016年4月を目標に、この間の学術研究の進捗を反映した常設展示内容のアップデートを行い、必要な展示造作を改修、ミュージアムショップをリニューアルする。

イ 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下 1、2 階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、500 m²程度の収蔵施設の増設を要望したい。また、今後の受入資料の専門領域拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の 3 部門の専門領域について、特色ある博物館資料の充実を目指し、刑事部門では刑罰史関連資料、古文書・絵図・古地図類、考古部門では黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では伝統的工芸品産業の関連資料を収集の基本方針とする。また、資料の寄贈の申し出に対応する。

イ 博物館資料の保存処置・レファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進に当たり十分なレファレンス体制の整備は中核的な課題である。各種資料には必要な保管処置をし、必要に応じて修復を行い、収蔵品目録を公開していない資料について順次検索の態勢を整備する。

ウ 個性的な蔵書構築

博物館 3 部門に関連する専門図書について蔵書構築を行っていく。特に、全国各地の発掘調査機関から博物館と考古学専攻に寄贈される遺跡発掘調査報告書、全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録、収蔵資料関連の参考文献の収蔵は当博物館の存在を際立たせている。約 8 万冊の蔵書は図書館の O P A C に書誌登録されており、閲覧環境の整備・蔵書点検を図書館と共同して推進する。

7 社会連携・社会貢献

文科省の補助事業や大学基準協会による大学評価においても注目される社会連携事業について、社会連携機構、リバティアカデミー、図書館と連携して充実化を図る。

(1) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

ア 年間 7 万人を超える大学博物館トップクラスの入場者を数える博物館の特別展示室において、本学における教育研究成果を広くアピールする。

イ 研究資源としてばかりではなく、大学教育への興味関心の喚起という観点から、教養・娯楽を含めて社会における幅広い収蔵資料利用を促進する。

ウ 新聞・テレビなど報道機関に対し、タイムリーな情報提供をおこないパブリシティ効果を高める。全学的な教育研究成果の社会発信を図るしくみを博物館として策定する。

(2) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本学との間に連携協定を締結している長野県長和町をはじめ、自治体や教育機関、学会と連携し、「信州黒曜石研究フォーラム」の開催などを通して黒曜石原産地と石器時代遺跡の保存・活用に関する行政的コンセンサス形成を支援する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館との交流事業を推進する（交流協定に基づく第 2 期事業:2013 年度～2015 年度）。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、福島県いわき市、長和町、東京都千代田区などとの間で地域連携を推進する。

エ 学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

(3) 博物館友の会活動の支援

市民参画による一般社会との接点として機能し、博物館友の会と博物館は互恵関係にあり、その活動の支援は博物館にとって極めて重要である。会員による自律的な運営体制をとっている博物館友の会からは、ボランティア参画により展覧会や図書室の運営、資料整理等の支援を受けており、博物館の対外的な評価形成に果たす同会の貢献は大きい。

8 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の基幹人材である学芸員については、関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在、一般事務職員の配置がないことが学芸員による専門的職務遂行を制約しており、世界的なレベルを目指し博物館を発展させる態勢には程遠い。博物館の発展に向けて適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

収蔵資料の収集プロセスは第 2 次大戦前に遡り、その間には度重なる組織改編や所在地移転があり、資産登録に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め、資産登録手順や棚卸し等の管理手段について関係各部署と協議の上、適切な財産管理体制を構築する。

9 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員・事務管理職によって構成される博物館協議会における意見聴取をはじめ、教職員や学外の有識者等に対し幅広く評価を求める。また、各種アンケート調査や博物館友の会との対話を通して、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また、各種資料整理の成果を図録、目録、報告書等として刊行する。

イ 事業報告と広報活動

事業内容、研究実績、収蔵資料利用数・入館者動向等の各種統計、予算・決算、各種委員会、規程類、施

設概要等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。広報誌「ミュージアム・アイズ」（年2回発行）やミュージアムショップ並びに他の博物館・学会等とのネットワークを活用し、事業内容と活動の広報に努める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

7 2015年度単年度計画重点項目一覧

順位	計画課題（名称）	計画の成果・効果	備考
1	常設展示室部分改修	常設展示及びガイドブックにおいて提供する情報を、最新の研究成果を反映したものにアップデートする必要がある。また、建学の精神「権利自由」の具現化や国際的評価の視点を積極的に盛り込むことにより、年間7万人超の来館者やマスコミ報道に対し明治大学の教育理念をアピールし、展示見学を通じた在学生対象の教養プログラムを学長方針に掲げる教育方針に沿う形で開発することができる。	2014年度予算額700万円。 例年開催している特別展の実施に替えて、2015年度に常設展示の改修をおこなう。 2016年度以降は例年通り継続して特別展開催を計画する。
2	明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	2012年度から始まった第2期3か年計画の2年目は、初年度に引き続き相互の特色ある収蔵資料を交換展示し、それをテーマに講演会や実習をおこなう。在学生教育・生涯教育の双方において、本大学にはない新規分野に関する学習機会の提供が実現するとともに、本大学の研究成果・研究資源について名古屋方面へアピールする機会となる。	2014年度予算額100万円。 2016年度以降、第3期事業を予定。
3	内藤家文書研究の推進及び旧領延岡市との交流事業	5ヶ年計画の4・5年目は研究環境の整備を引き続きおこなう。重要史料の抽出調査実施により、その成果を博物館広報誌や博物館研究報告、企画展などで発表することができる。このような情報発信によって史料利用の利便性を向上させ、研究活動の活性化に資することができる。	2014年度予算額66万円。
4	ICTミュージアムの構築	博物館の学術情報と魅力を発信するホームページ（HP）を公開する。コンテンツは博物館資料のリレーショナルデータベースを基盤とし、(1)仮想展示室ツアー、(2)3D画像、高精細画像による資料ギャラリー、(3)展覧会映像ギャラリーほかのコンテンツからなる。本HPにより、新しい形態のコレクション利活用を促進し、多言語対応による博物館情報の海外発信を行う。	

8 明治大学博物館のあゆみ

- 1881 (明治14) 年 1月 明治法律学校開校
- × ×
- 1929 (昭和 4) 年 4月 刑事博物館を記念館 5 階に開設
- 1931 (昭和 6) 年 大学創立50周年記念刑事展覧会開催
- 1933 (昭和 8) 年 刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任
- 9月 『刑事博物図録』を刊行
(第2次世界大戦)
- 1949 (昭和24) 年 新制大学へ移行
- 1951 (昭和26) 年 4月 刑事博物館の運営を再開 2代館長に島田正郎法学部教授(後、明治大学総長)
林久吉商学部教授(初代商品陳列館長)らの商品研究所が資料室を開設
- 1952 (昭和27) 年 考古学陳列館が2号館4階に開館(初代館長後藤守一文学部教授)
- 1954 (昭和29) 年 4月 刑事博物館が2号館4階へ移転 6月に一般公開開始
- 1955 (昭和30) 年 2月 刑事博物館が博物館相当施設に指定される(2004年3月廃館にともない指定解除)
- 1957 (昭和32) 年 5月 商品陳列館が2号館4階に開館
(この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成)
- 1960 (昭和35) 年 考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授就任
- 1966 (昭和41) 年 4月 小川町校舎に移転(考古2階・刑事3階・商品4階)
商品陳列館長に三谷茂商学部教授就任
(大学紛争)
- 1976 (昭和51) 年 4月 刑事博物館長に鍋田一法学部教授就任
- 1977 (昭和52) 年 4月 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催(年1回～2003年)
- 1981 (昭和56) 年 1号館(刑事1階・考古3階)、11号館(商品4階)へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部
教授就任
- 1983 (昭和58) 年 9月 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授就任
- 1985 (昭和60) 年 11月 3館大会館へ移転(刑事・商品3階・考古4階)
「考古学博物館」に名称変更
- 1987 (昭和62) 年 5月 公開講座「考古学ゼミナール」開講
- 1988 (昭和63) 年 6月 考古学博物館友の会結成
- 1991 (平成 3) 年 4月 3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
- 10月 「明治大学博物館規程」制定
- 1995 (平成 7) 年 4月 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授就任 刑事博物館長に川端博法学部教授就任
- 10月 博物館入門講座を開講
- 1996 (平成 8) 年 4月 考古学博物館長に小林三郎文学部教授就任
- 1997 (平成 9) 年 4月 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催(～12月)
- 2001 (平成13) 年 4月 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
- 2002 (平成14) 年 4月 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授就任

- 2004（平成16）年 4月 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館
「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合）
国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月）
博物館長に小疇尚文学部教授就任
- 10月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）
- 2006（平成18）年 4月 博物館長に杉原重夫文学部教授就任
- 8月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）
- 10月 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
- 11月 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）
- 2007（平成19）年 10月 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
- 2009（平成21）年 4月 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる
巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」開催 中国国家一級文物を展示（～5月）
- 2010（平成22）年 3月 南山大学人類学博物館と交流協定締結
- 2012（平成24）年 4月 博物館長に風間信隆商学部教授就任
- 2013（平成25）年 2月 ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との
合同特別展「驚きの博物館コレクション展」（～3月）
- 3月 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いと
コレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
- 7月 岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月） 韓国公州市石壮里
博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”展」を開催（～2014年2月）
- 2014（平成26）年 5月 開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」を開催
（～6月）
- 7月 大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを
紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～
8月）
- 2016（平成28）年 3月 常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
- 4月 博物館長に村上一博法学部教授が就任

編集後記

2014年度の早々には現在の博物館施設が開館してから10年という区切りを機会に、それまでの博物館の来歴を検証した「明大博物館クロニクル」展が開催されました。さらに、その10年の間にも着々と調査・研究活動の成果は積み上げられており、また、学界動向にも当然変化がありました。そこで、10周年の総仕上げとして2015年度は例年の特別展を休み、常設展示の解説パネル類をほぼ一新し、近年の収集資料を活用する改修作業をおこなうことになりました。各展示部門のイメージカラーはそのままに、主要な展示物もそのまま継承されているため、見た目には大きな変化となった印象はないかもしれません。しかし、いざ解説文の執筆にとりかかると、この10年間で決して短くなかったことを、10年前からは大きく変わった自身の着眼点や知識の蓄積から実感することができました。自画自賛とはまさにこのことですが、これには、館の運営にご助言・ご協力をいただいた諸先生方や、展示に関してさまざまな意見・感想をくださった博物館友の会の皆さん、また、この間大学から十分な活動予算をご配慮いただいたことなど、大勢の皆さんからのご支援の賜物であることを肝に銘じたいと思います。

(編集子)

明治大学博物館年報 2015年度

2016年8月1日 発行

編集 明治大学学術・社会連携部博物館事務室
発行人

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448

FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社サンヨー

東京都千代田区神田神保町1-30

